

取扱説明書及び部品表

Takakita

ノセカエヨウロールペーラ

VCW1621W-H



本製品を安全に、また正しくお使いいただくために
必ず本取扱説明書をお読みください。
お読みになった後も大切に保管してください。
本取扱説明書はお手持ちのスマートフォンや
タブレットからアクセスすることができます。



株式会社 **タカキタ**

は じ め に

このたびは本製品をお買い上げいただき、ありがとうございました。

この取扱説明書は、**ノセカエヨウロールペーラ**の取扱方法と使用上の注意事項について記載しております。ご使用前には必ず、この取扱説明書を熟知するまでお読みのうえ、正しくお取扱いただき最良の状態でご使用ください。

- お読みになったあとも必ず製品に近接して保管してください。
- 製品を貸与または譲渡される場合は、この取扱説明書を製品に添付してお渡しください。
- この取扱説明書を紛失または損傷された場合は、速やかにお買い上げの販売店または当社にご注文ください。
- 本書は、**注意**として、製品自体の損傷防止に関する留意事項を書いております。
- なお、品質・性能あるいは安全性の向上のため、使用部品の変更を行うことがあります。お手元の製品と本書の内容が一致しない場合もありますので、あらかじめご了承ください。
- ご不明なことやお気付のことがございましたら、お買い上げの販売店または当社にご相談ください。

⚠ 警 告 サ イ ン

⚠ 印付きの下記マークは安全上、特に重要な項目ですので、よく読んで必ずお守りください。

- | | |
|------|--|
| ⚠ 危険 | その警告に従わなかった場合、死亡または重傷を負うことになるものを示します。 |
| ⚠ 警告 | その警告に従わなかった場合、死亡または重傷を負う危険性があるものを示します。 |
| ⚠ 注意 | その警告に従わなかった場合、ケガを負うおそれのあるものを示します。 |

目 次

 安全に作業するために	1
本製品の使用目的とサービスについて	20
各部の名称とはたらき	21～35
トラクタへの装着	36
1. ドローバへの装着のしかた	36
2. ユニバーサルジョイントの取付け	37
3. 油圧ホースの接続	38
4. コントロールボックスの接続	38
5. 灯火の接続	39
6. 後方モニターの接続	40
運転に必要な装置の取扱い	42
1. ベール直径、密度の取扱い	42
2. 累積表示の取扱い	42
3. 拾い上げ高さの調整	42
4. グラスプレスローラの高さ調整	42
5. ステップの使用法	43
6. リヤチャンバの下降防止	43
7. ネットの取付けと通しかた	43
8. トワインの取付けと通しかた	45
9. トワイン巻付けピッチの調整	46
10. ナイフホルダ開閉の方法	46
11. 切断ナイフの取外し、取付け	47
12. 切断長の調整	50
13. 切断ナイフ	50
作業方法	51
1. 作業手順と要点	51
2. ネットの巻き回数調整	52
3. 作物の拾い上げ	52
4. 作業時の結束手順とトラブル対応	54
5. 作業時のピック、カッティング ドラムへの草詰り解除	55
6. 傾斜地での作業	55
作業前の点検について	56
簡単な手入れと処置	58
1. 各部のローラチェーンの張り調整	58
2. 自動注油	60
3. エア抜きのしかた	61
4. ミッションオイル	61
5. ユニバーサルジョイントのグリスアップ	61
6. チャンバ部のグリスアップ	62
7. ターンバックルの長さ	63
8. タイベルトのテンションの緩めかた	63
9. ベール圧力制御バルブ操作	64
10. 長期格納時の手入れ	65
不調診断	66
付表	69
1. 主要諸元	69
2. 主な消耗部品	69
3. オイル	69
4. 構成部品の位置	70
5. 電気回路図	71
6. 油圧回路図	72

安全に作業するために

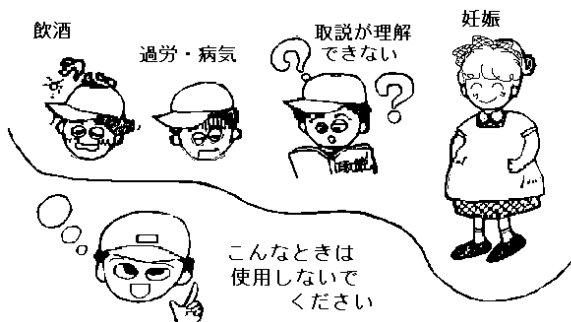
取扱説明書をよく読み、機械の使い方をよく覚えてから使用してください。
そして、機械を点検して異常がないかを確認してから使用してください。機械を他人に貸すときまたは他人に運転させるときは、運転のしかたを教え、取扱説明書も貸与し必ず読んでもらってください。

1. 本機を使用するにあたって

(1) 使用する人の条件

次の項目に該当する場合は本機を使用しないでください。

- 飲酒したとき
- 過労・病気・薬物の影響・その他の理由により正常な運転ができないとき
- 妊娠しているとき
- 取扱説明書を熟知していない人
- 16歳未満の人



(2) 使用する人の服装

機械に巻き込まれたり、滑って転倒したりする事故を予防するため、首巻き・腰タオルをしないで、ヘルメット・滑り止めの付いた靴を着用し、だぶつきのない作業に適した服装で安全な作業をしてください。



(3) 適応トラクタ以外への装着厳禁

下記の装着条件に合致するトラクタ以外には装着しないでください。

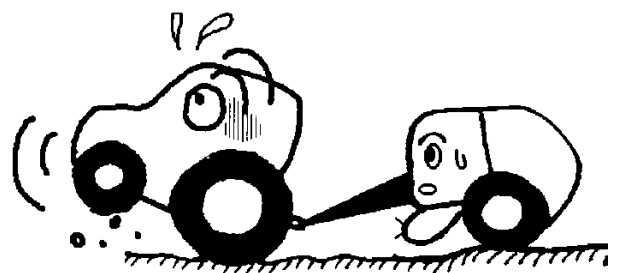
● 適応トラクタ

型 式	適 応 ト ラ ク タ
VCW1621W-H	73.6~110.3kW(100~150PS)

- 装着方式 : ドローバ
- PTO回転速度 : 540min⁻¹
- 電源用バッテリー : DC12V
- 油圧取り出し : 複動油圧2系統、単動油圧 1 系統

(4) 装着時の前後バランス

ドローバに取付けしてチャンバに牧草を入れたとき、ヒッチ荷重にトラクタ重量を加えた値の20%以上の荷重が前輪にも作用していることが必要です。
もし、不足するときはフロントウェイトを取付けて、20%以上確保するか、できなければ装着しないでください。



(5) バランスウエイトの取付け

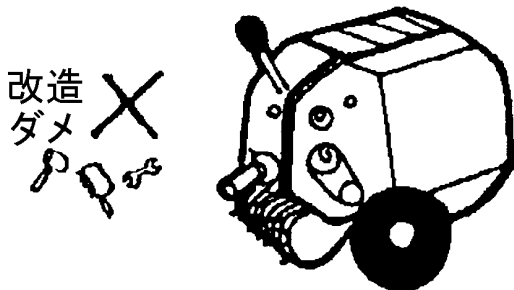
トラクタのバランスウエイトは指定されたウエイト以外は取付けないでください。

安全に作業するために

(6) 機械の改造厳禁

純正部品や指定以外の部品を取付けないでください。

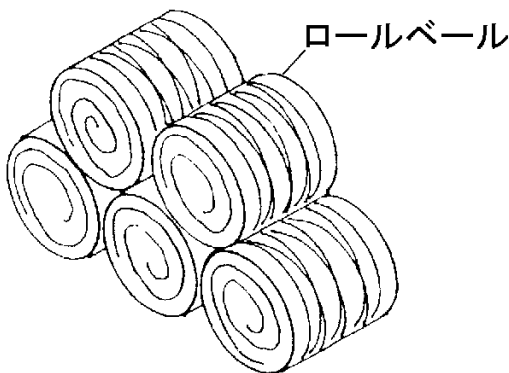
また、改造はしないでください。



(7) 使用目的以外への使用禁止

稲わら、麦稈、牧草のロールバール梱包を目的として作られた機械です。

他の目的には使用しないでください。



(8) 機械を他人に貸すとき

取扱方法をよく説明して、使用前には『取扱説明書』を必ず読むように指導してください。



2. 点検・整備をしてください

(1) 1年毎の定期点検・整備を

整備不良による不具合や事故を防止するために、1年毎に定期点検・整備を受け、機械が最良の状態で作業ができるようにしてください。



(2) 始業点検・整備を忘れずに

ご使用になる前と後には、必ず点検・整備を行ってください。

(3) 点検・整備・掃除をするとき

点検・整備・修理・掃除するときは交通の危険がなく、機械が転倒したり、動いたりしない平坦で安定した場所でエンジンを止めてから行ってください。



(4) ナイフに注意すること

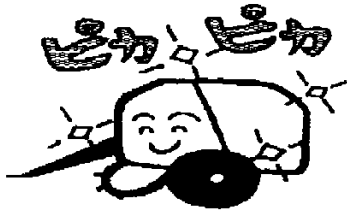
ナイフ類は、絶対に素手で触れないでください。必ず手袋などの保護具を着用してください。



⚠ 安全に作業するために

(5) 機械を常にきれいに

本機の性能を長期間維持するためにも機械を常にきれいに維持してください。



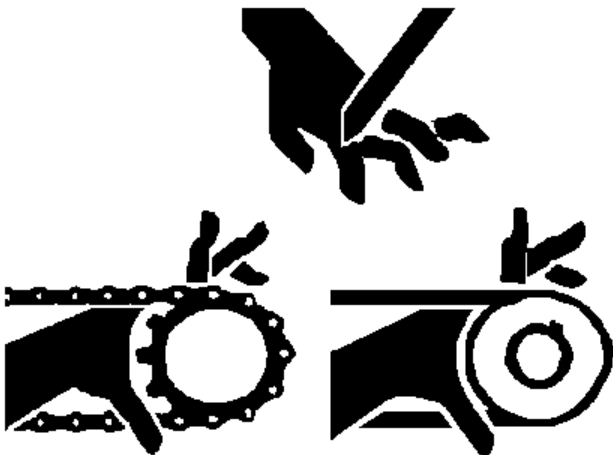
(6) 排気ガスには十分注意

屋内などでエンジンを始動するときは、エンジンの排気ガスによる一酸化炭素中毒の恐れがあります。
エンジン始動は、風通しのよい場所で行い、やむをえず屋内で始動する場合には、十分換気を行ってください。



(7) カバー類を必ず取付ける

カバー類などの防護装置を取外すときは、必ずPTOを切り、エンジンを止めてから行ってください。
また、取外したカバー類は必ず元通りに取付けてください。守らないと傷害事故を引き起こす恐れがあります。



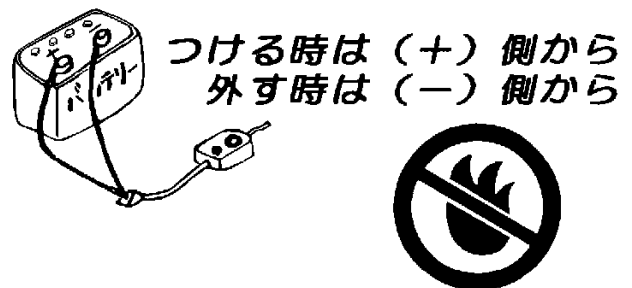
(8) 注油・給油するときは

PTOを切り、エンジンを止め、回転部分が完全に停止してから行ってください。

(9) コントロールボックスの電源脱・着は

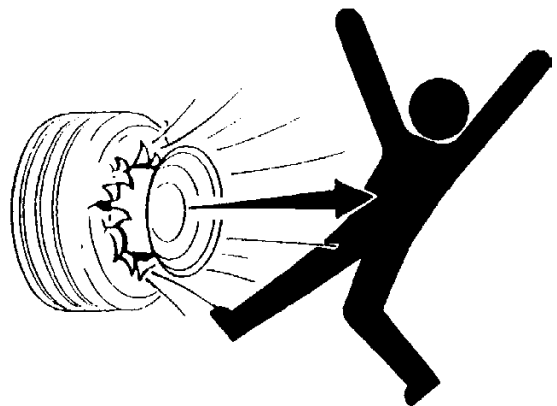
トラクタのバッテリーより電源を取出します。
その取付け方法は、+側から行ってください。
外すときは、-側から行ってください。

逆にすると火花が飛び危険です。
(詳細は本文の『コントロールボックス』の取付けを参照してください。)



(10) タイヤの点検・修理をするときは

- ① タイヤの空気圧は、規定の空気圧を必ず守ってください。
- ② 空気の入れ過ぎはタイヤ破損の恐れがあり、死傷事故を引き起こす原因になります。
- ③ タイヤに傷があり、その傷がコード(糸)に達している場合は、使用しないでください。
タイヤ破損の恐れがあります。
- ④ タイヤ・チューブ・ホイールなどに関する交換・修理などは十分な整備設備をもち、特別教育を受けた人がいるタイヤショップなどの専門店で依頼してください。



⚠ 安全に作業するために

(11) 長期格納するときは

機械をきれいにし、回転部には十分注油して、屋内の平坦な場所に保管してください。
コントロールボックスは、トラクタより取外して屋内の乾燥した場所に保管してください。



3. 作業・移動をするときは

(1) 人や動物を近づけない

特に子供には十分注意し、近づけないようにしてください。

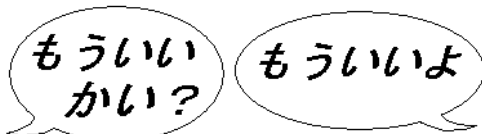


(2) PTO回転中は危険です

回転部には近寄らない、触れないを守ってください。

(3) 2人以上で作業するときは

2人以上の共同作業では、お互いに声を掛け合うなどして、安全を確かめ合いながら作業してください。

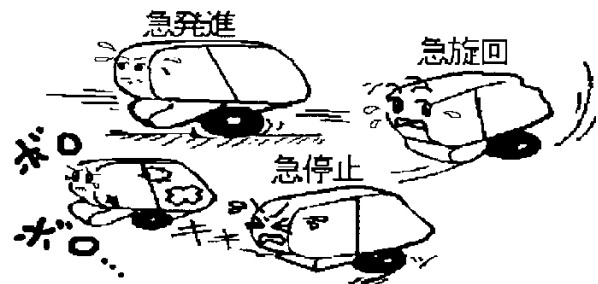


(4) エンジンを始動するときは

PTOを切り、変速レバーを中立にし周囲の人に合図をして安全を確かめてからエンジンを始動してください。
守らないと傷害事故を引き起こす恐れがあります。

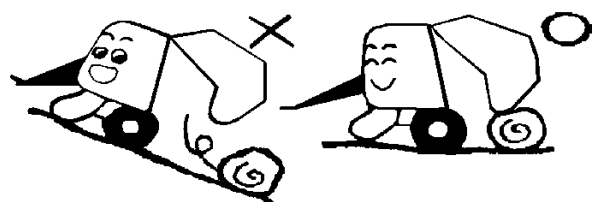
(5) 急な発進・停止・旋回・スピードの出し過ぎ禁止

スピードを出し過ぎたり、急な発進・停止・旋回は事故の原因となるだけでなく、機械の寿命も縮めますので行わないでください。
また、起伏の多いほ場や傾斜地は、きけんです。
作業スピードは極力低くして作業を行ってください。



(6) 傾斜地で作業するときは次のことを必ず守ってください

- ① 斜面の等高線に平行、または斜めに走行すると横転の危険があります。
斜面の作業は、必ず直角方向に走行してください。
- ② 傾斜地で旋回するときは、速度を落とし、急ハンドルを切らないでください。高速で旋回すると、転倒する危険があります。
- ③ 傾斜地でのバール放出は、谷側にバールが転がって危険です。必ず、平坦地まで移動して、安全な場所で放出してください。



⚠ 安全に作業するために

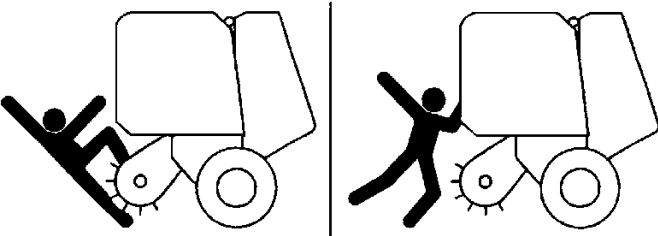
(7) 回転中のユニバーサルジョイントには触れない

回転しているユニバーサルジョイントに、手や足で絶対に触れないでください。巻き込まれ傷害を負うことがあります。



(8) 回転中のピックアップドラムやタイトバーには触れない

回転しているピックアップドラムやタイトバーに、手や足で絶対に触れないでください。巻き込まれ重傷を負うことがあります。



(9) 移動及び作業の旋回の際は

トラクタに本機を牽引して旋回するときは、内輪差が生じるので十分注意してください。急旋回は危険ですので行わないでください。



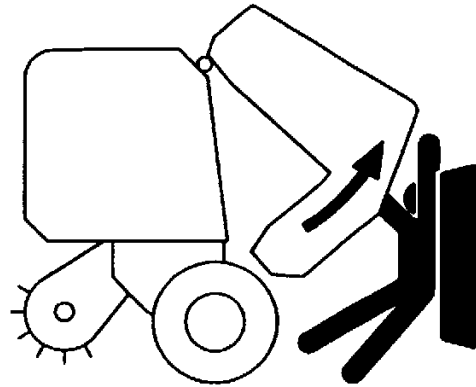
(10) 巻き付き草などを取り除くときは

PTOを切り、エンジンを必ず止め、回転部が完全に停止してから行ってください。



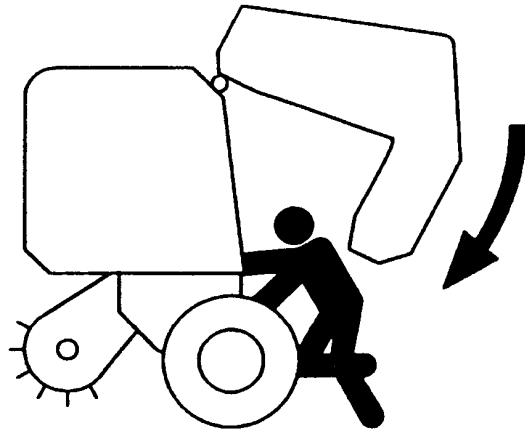
(11) ベールを放出するときは

ベールの放出は、後方に人がいないことや、障害物のないことを十分確認し、放出距離を考慮して放出してください。



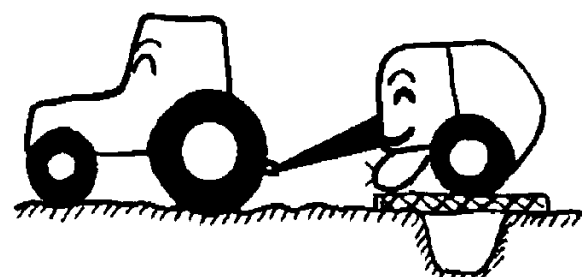
(12) チャンバを開けて作業するときは

シリンダーバルブを必ず左右共にロックしてください。行わないと傷害事故を引き起こす恐れがあります。



(13) 溝や畦を横断したり軟弱な所を通るときは

スリップや転倒による事故を防ぐために、幅・長さ・強度が十分あるスリップしないアユミ板をかけ、最低速度で通ってください。

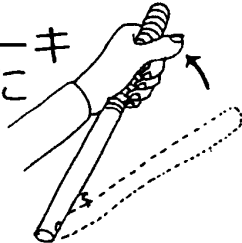


⚠ 安全に作業するために

(14) 作業途中で運転席より離れるときは

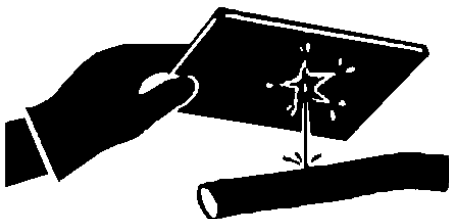
平坦な場所に停止し、PTOを切り、エンジンを止め、駐車ブレーキを掛け本作業機側に車止めをしてください。

駐車ブレーキ
も忘れずに

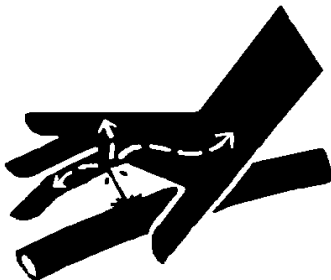


(15) 高圧油に注意してください

- ① 圧力がかかり噴出した油は、皮膚に浸透する程の力があり、傷害の原因になります。
- ② 高圧油による傷害を防止するために、配管・ホースなどの取外し前には必ず残圧を抜いてください。
- ③ 圧力をかける前に配管・ホースなどは正しく確実に締付けてください。
- ④ 非常に小さな穴からの油漏れは、ほとんど目に見えないことがあります。
手で油漏れを探すことは止めてください。必ず、保護メガネをかけ、紙などを使用して調べてください。



- ⑤ 万一、油が皮膚に浸透したときは、強度のアレルギーを起こす恐れがあるので、すぐ医師の診療を受けてください。



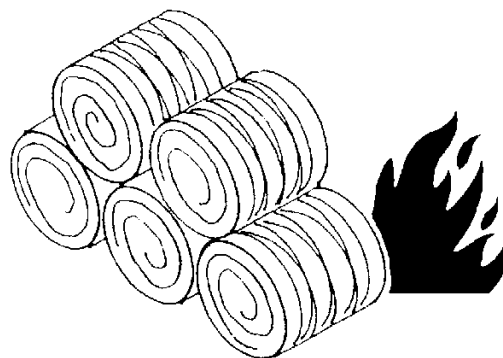
(16) 高温油に注意してください

- ① 高温油による傷害を防止するために、作業直後の注油やミッションのオイル交換はしないでください。作業前か十分温度が冷えてから行ってください。
- ② 火傷やケガを負った場合は、速やかに医師の診療を受けてください。



(17) 乾草に注意

乾燥不十分な牧草をロールベールに成形すると、ロールベール内部からの発火により火災が発生する危険性があります。ロールベール成形後2～3日間は、風通しの良い屋外に仮置きした後、屋内に収納してください。



安全に作業するために

4.道路走行するときは

◆トラクタ装着時の公道走行について

農耕用トラクタに関わる道路運送車両法の運用が見直され、保安基準に緩和措置が設けられました。
必要な対応をすることで、けん引タイプの作業機で公道走行を行うことができます。
公道走行をする際は、下記項目を確認した上で必要な対応を行い、法令遵守して走行してください。

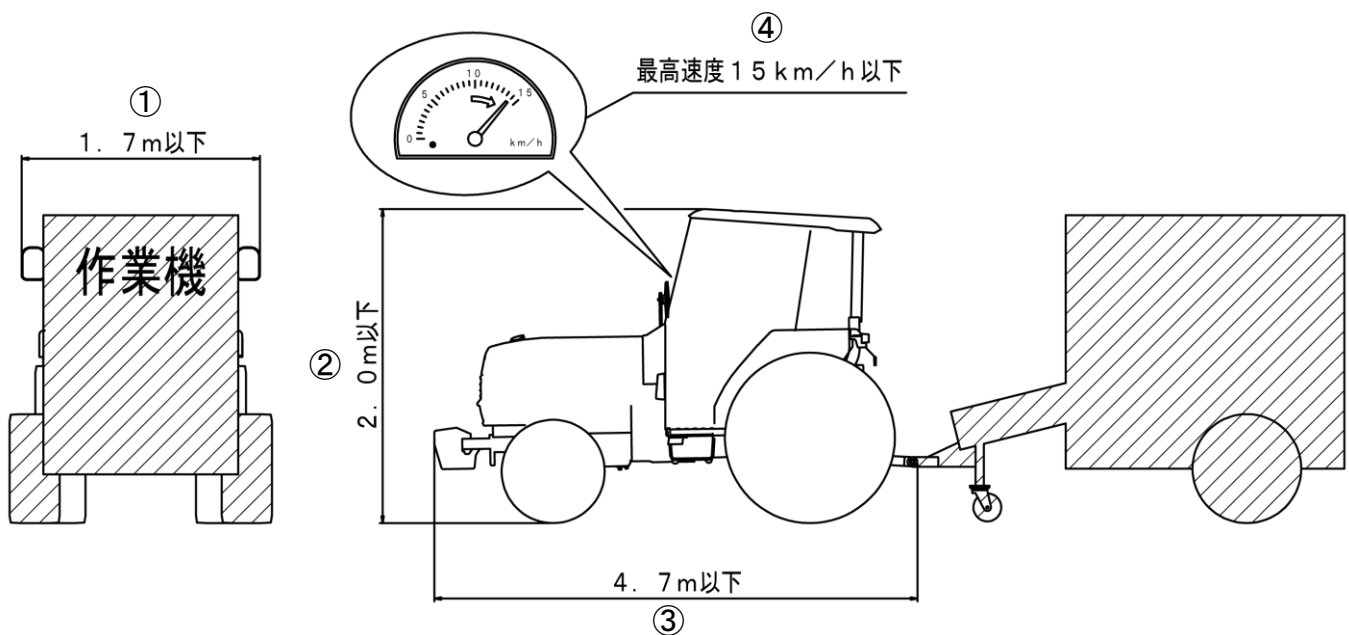
(1) 必要な運転免許証について

トラクタの寸法が下表①～③の数値以内で④最高速度15km/h 以下の場合は小型特殊免許で運行可能になりますが、下表①～④の数値をひとつでも上回る場合、大型特殊免許(農耕用に限る、も含む)とけん引免許(農耕用に限る、も含む)が必要となります。

ただし、車両総重量 750kg を超えない農耕作業用トレーラをけん引する場合、けん引免許(農耕用に限る、も含む)は必要ありません。

- | | |
|-----------|-------------------------------|
| ① 幅1. 7m | ② 全高2. 0m(安全キャブや安全フレームは2. 8m) |
| ③ 全長4. 7m | ④ 最高速度15km/h 以下 |

下図を参考にご確認ください。



安全に作業するために

(2) 保安基準への適合性確認

自動車の種類と大きさにより、申請や検査登録が必要になります。

いずれの場合も農耕作業用トレーラ、農耕トラクタの使用者が保安基準適合性を確保する必要があります。

けん引車の農耕トラクタの種別	農耕作業用トレーラの種別と手続き
小型特殊自動車	[小型特殊自動車] ①一般的な大きさのもの ※1 ・個別に地方運輸局長から基準緩和の認定を、道路管理者から特殊車両通行許可を受ける必要はありません。
大型特殊自動車 (自動車検査証にけん引時の速度制限の基準緩和を受けた旨の記載があるもの)	②全幅が2.5mを超えるもの ・道路管理者(地方整備局、各都道府県、各市町村等)に対し、個別に特殊車両通行許可を受ける必要があります。 ③長さが12m または全高3.8m を超えるもの ・個別に地方運輸局長から基準緩和の認定を、道路管理者から特殊車両通行許可を受ける必要があります。
大型特殊自動車 (上記以外のもの)	[大型特殊自動車] ①一般的な大きさのもの ※2 ・管轄の運輸支局等で検査登録が必要です。 ②長さが12m または高さが3.8m を超えるもの、その他オーバーハング等の基準を超えるもの ・管轄の運輸支局等で検査登録が必要です。 ・個別に地方運輸局長から基準緩和の認定を、道路管理者から特殊車両通行許可を受ける必要があります。

※1 全幅2.5m、全長12m、全高3.8mを超えない大きさのもの

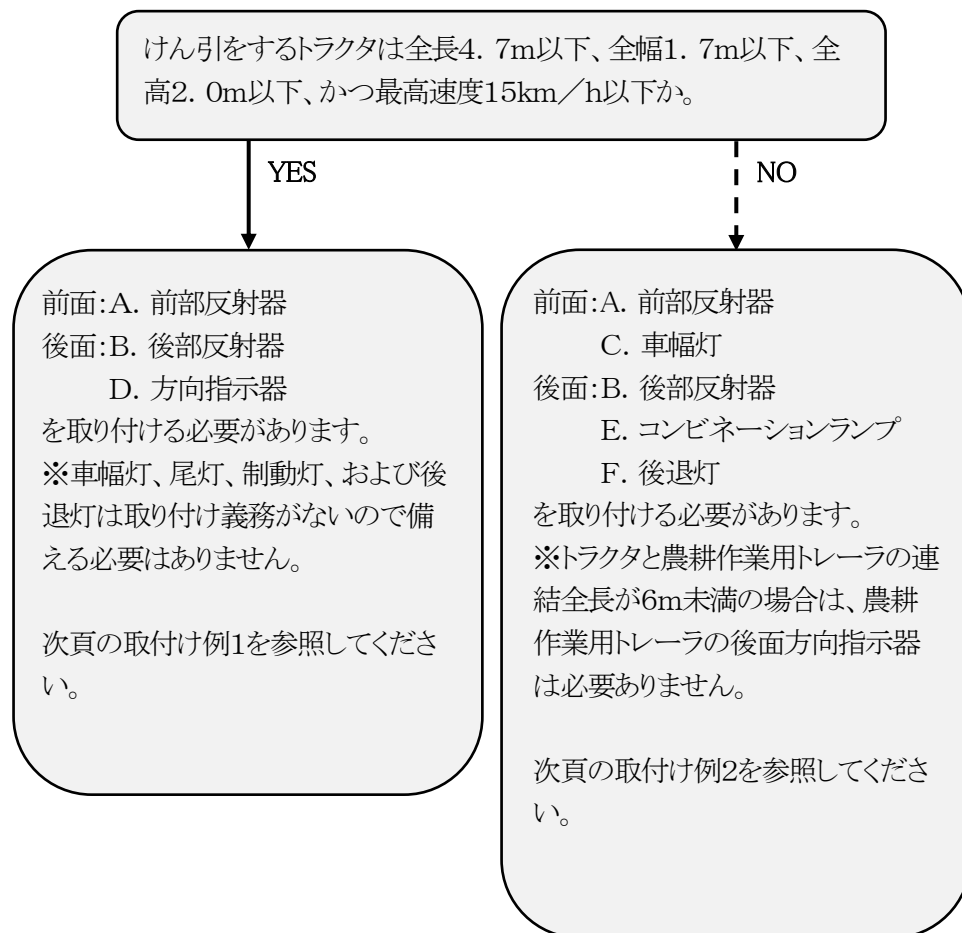
※2 農耕トラクタと農耕作業用トレーラの連結全長が12mを超える場合、道路管理者(地方整備局、地方自治体等)から、特殊車両通行許可を受ける必要があります。

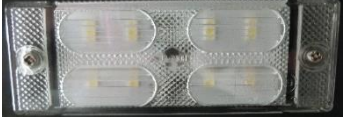
⚠ 安全に作業するために

(3) 灯火器類・ステッカーの取付け

下記フローチャート①～③を全てそれぞれについてご確認ください、必要に応じて公道走行を行うための追加装備を取付けてください。

①トラクタの大きさ、最高速度による灯火器取付け位置



A. 前部反射器	B. 後部反射器	C. 車幅灯	D. 方向指示器
			
E. コンビネーションランプ		F. 後退灯	
			

⚠ 安全に作業するために

● 装備の取付け位置

・道路運送車両の保安基準により、各種灯火器類の取付け位置は定められています。

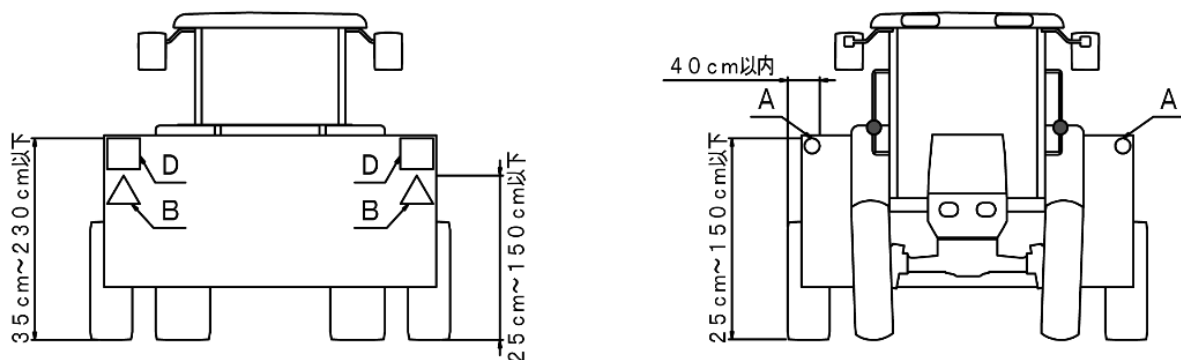
- 前部反射器(リフレクター) 最外側から40cm 以内、高さは地上25cm 以上150cm 以下
- 後部反射器(リフレクター) 最外側から40cm 以内、高さは地上25cm 以上150cm 以下
- 車幅灯(ポジションランプ) 最外側から15cm 以内、高さは地上25cm 以上210cm 以下
- 方向指示器(ウインカー) 最外側から40cm 以内、高さは地上35cm 以上230cm 以下
- 尾灯(テールランプ) 最外側から40cm 以内、高さは地上35cm 以上210cm 以下
- 制動灯(ブレーキランプ) 最外側から40cm 以内、高さは地上35cm 以上210cm 以下
- 後退灯(バックランプ) 高さは可能な限り25cm 以上120cm 以下

・車幅灯は前方から確認(視認)できる位置に、上記条件を満たし、可能な限り左右対称になるように取付けてください。

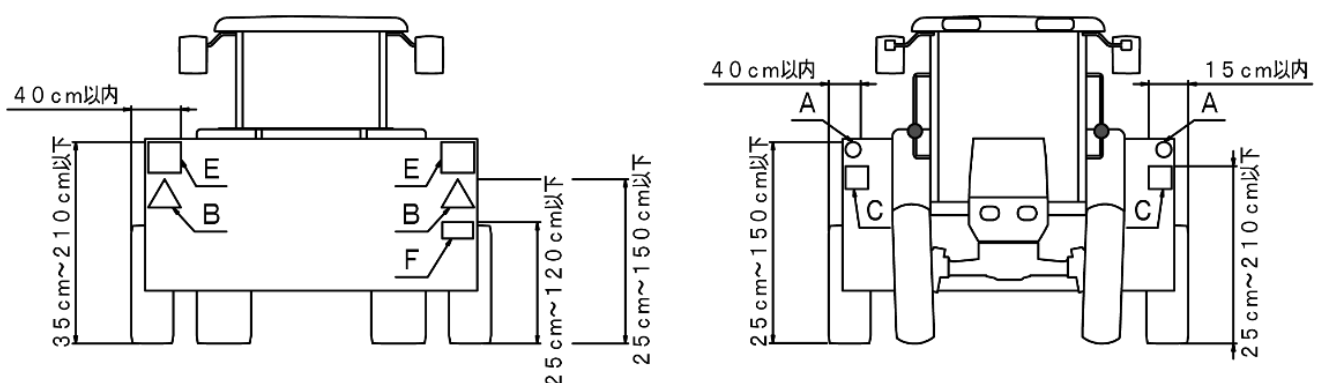
・コンビネーションランプは後方から確認(視認)できる位置に、上記条件を満たし、可能な限り左右対称になるように取付けてください。

・後退灯は後方から確認(視認)できる位置に上記条件を満たすように取付けてください。

(取付け例1)

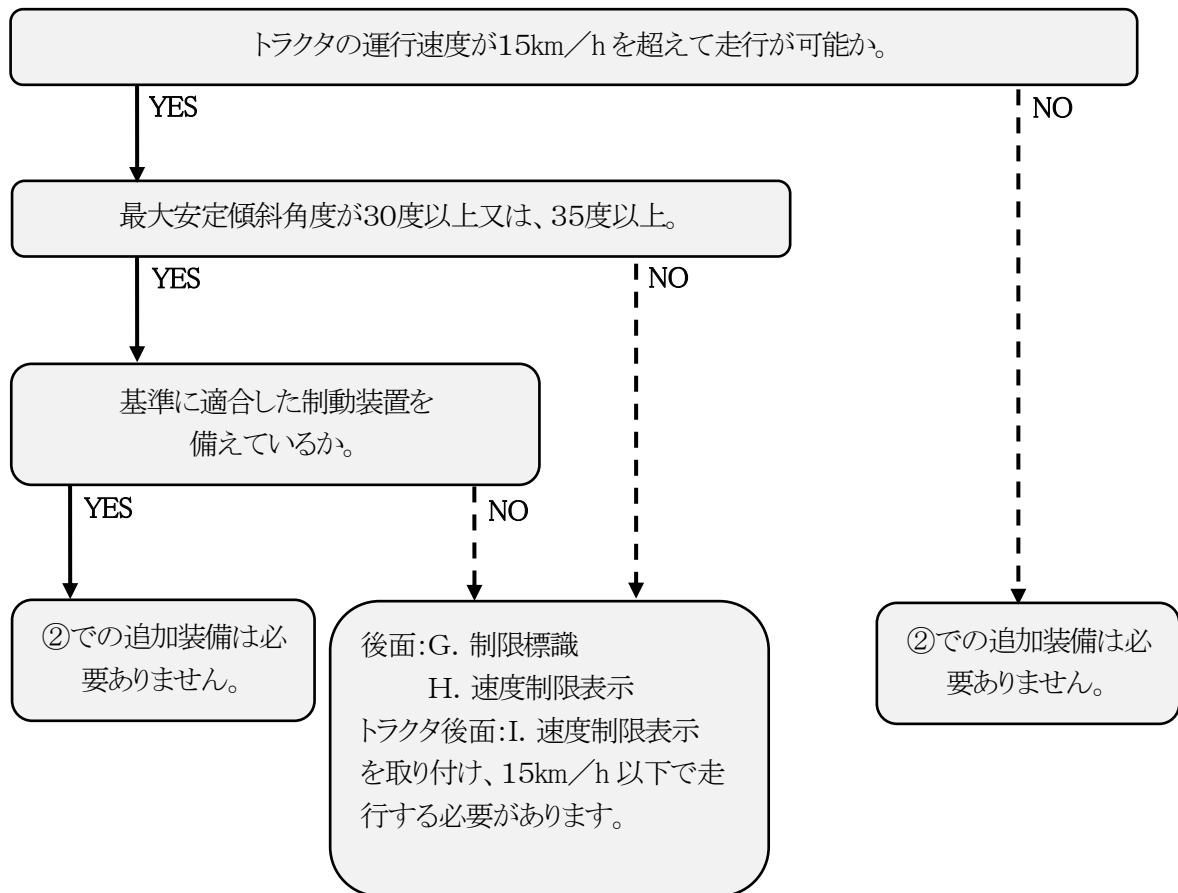


(取付け例2)



⚠ 安全に作業するために

②トラクタの運行速度



●最大安定傾斜角度が不明な場合は、運行速度15km/h以下で走行してください。

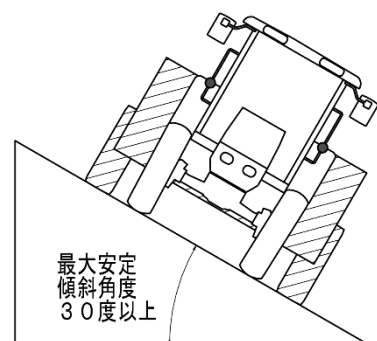
＜安定性に関して＞

作業機を装着した際に、最大安定傾斜角度が30度以上又は、35度以上(車両総重量が車両重量の1.2倍以上又は、積載により重心高さが上がるもの)であれば、通常で道路走行できます。

上記条件を満たさない場合は、

- ・運行速度15km/h以下での道路走行
- ・道路走行をする際に、Gを作業機後面に表示、
Hを作業機後面に表示、
Iをトラクタ後面・運転席に表示

を行う必要があります。



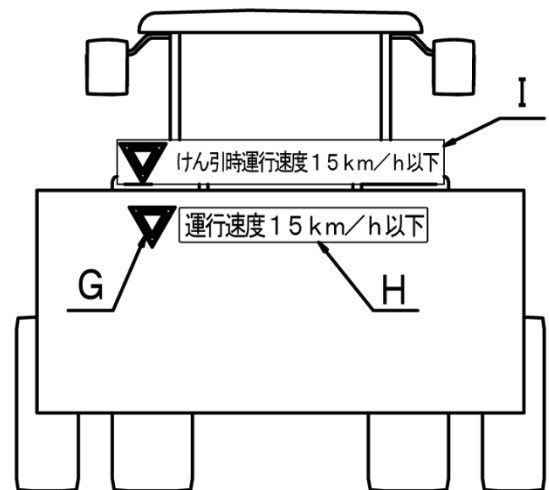
⚠ 安全に作業するために

● 装備の取付け位置

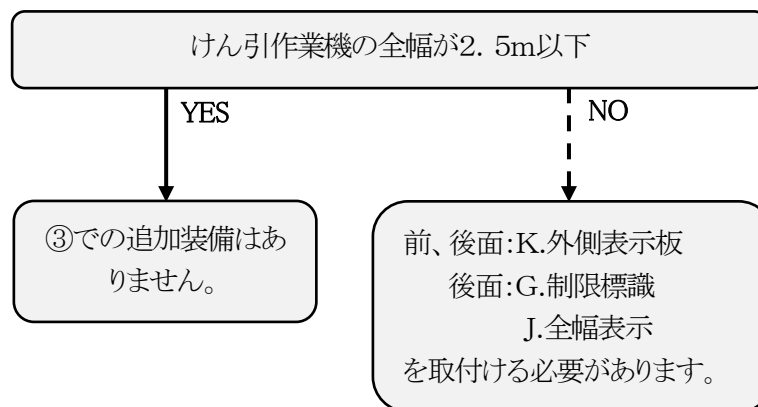
- ・G、H、Iは後方から確認できる位置に取付けてください。
- ・Hは運転席にも表示する必要があります。

G. 制限標識	H. 速度制限表示（作業機側）
I. 速度制限表示（トラクタ側）	

（取付け例）



③ 作業機装着時の全幅



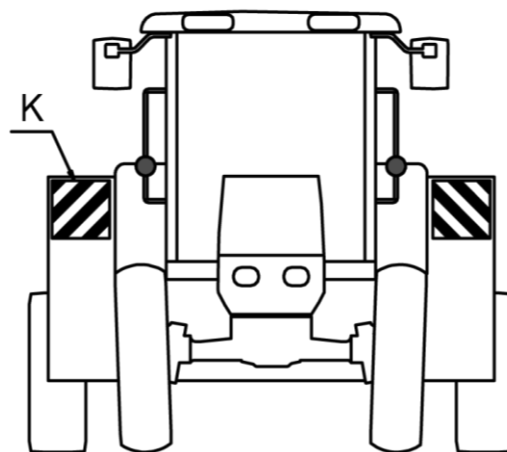
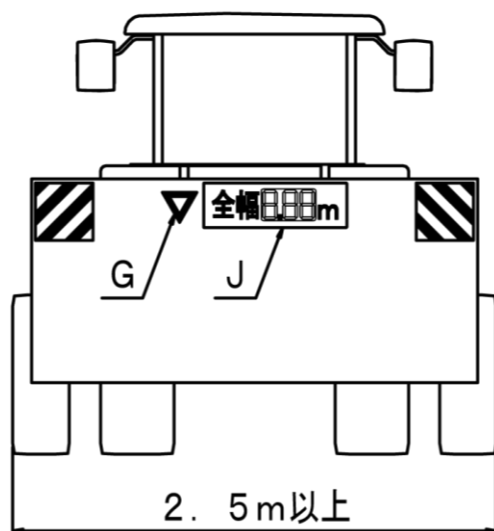
G. 制限標識	J. 全幅表示	K. 外側表示板

⚠ 安全に作業するために

● 装備の取付け位置

- ・G、Jは後方から見やすい位置に取付けてください。
- ・Kは前後、両端に赤白ラインが「ハの字」になるように取付けてください。

(取付け例)



⚠ 安全に作業するために

灯火器類・ステッカー取り付け例

灯火器取付け位置 車幅灯 前部反射器 尾灯 後部反射器 制動灯 方向指示器 後退灯	全長4.7m以下、 全幅1.7m以下、 全高2.0m以下、 最高速度15km/h 以下の場合	(ア)
	上記の寸法 または最高速度 15km/hを1つでも 上回る場合	(イ)
	全幅が2.5mを 超える場合	(ウ)

灯火器・ステッカー

A. 前部反射器

B. 後部反射器

C. 車幅灯

D. 方向指示器

E. コンビネーションランプ

F. 後退灯

G. 制限標識

H. 速度制限表示
(作業機側)

運行速度15 km/h以下

I. 速度制限表示
(トラクタ側)

けん引時運行速度15 km/h以下

J. 全幅表示

全幅8.88m

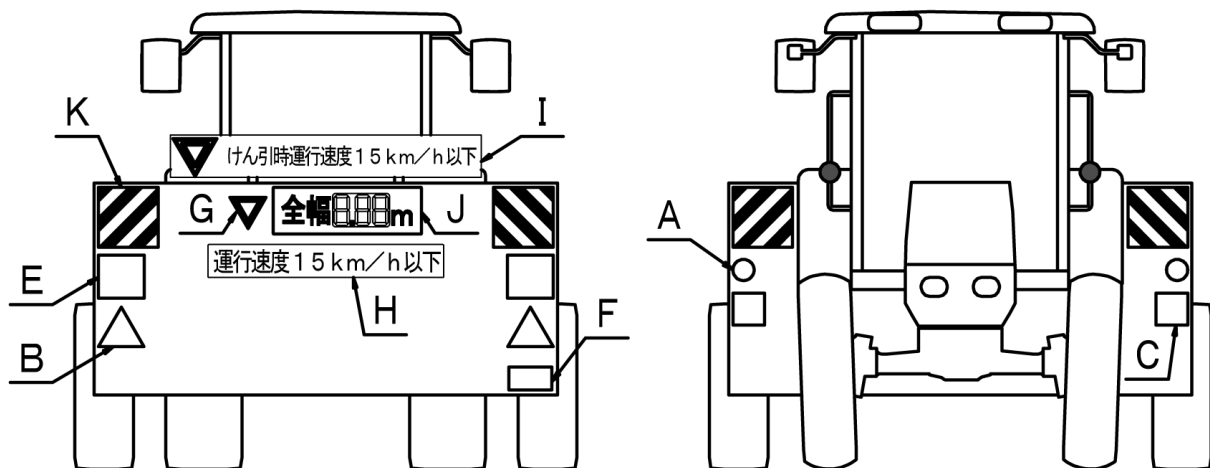
K. 外側表示板

※全幅2.5mを超過する場合は、道路管理者(国道:地方道路局、県道:各都道府県、市道:各市町村)から特殊車両通行許可を得る必要があります。

安全に作業するために

●11ページ「②トラクタの運行速度」を確認後、速度制限表示が必要な場合は取付けてください。

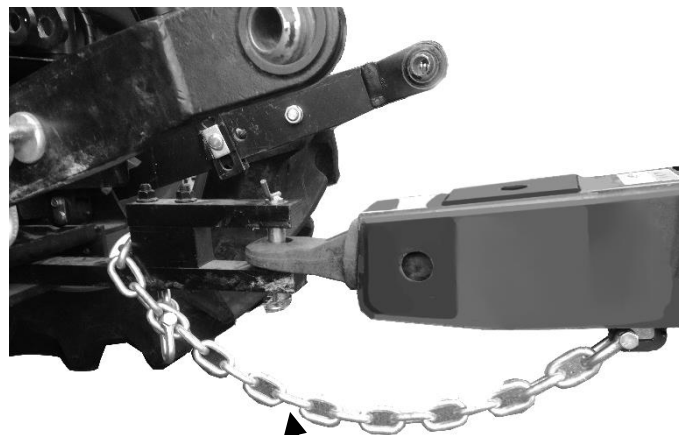
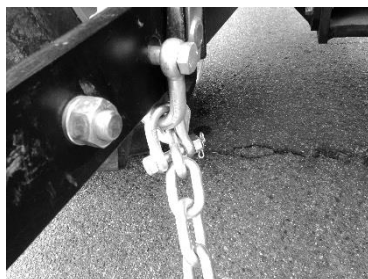
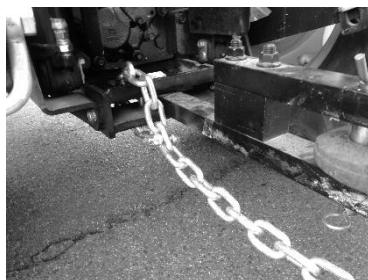
例: (ウ)に速度制限表示を追加



●灯火器類取付けの際には、トラクタの操作と連動して点灯することを確認後に公道走行を行ってください。
また、灯火器類・ステッカーが汚れたときは視認できるように掃除をしてください。

(4) 農耕作業用トレーラの構造要件(分離時の連結維持構造)に関して

農耕トラクタが農耕作業用トレーラをけん引した際に、不意に連結装置(ドローバ等)が分離したときでも農耕トラクタと農耕作業用トレーラの連結を保つことができる構造でなければ道路走行できません。セーフティチェーン等を備え、けん引時にはセーフティチェーン等をねじ止め等でつないで道路を走行してください。



セーフティチェーン

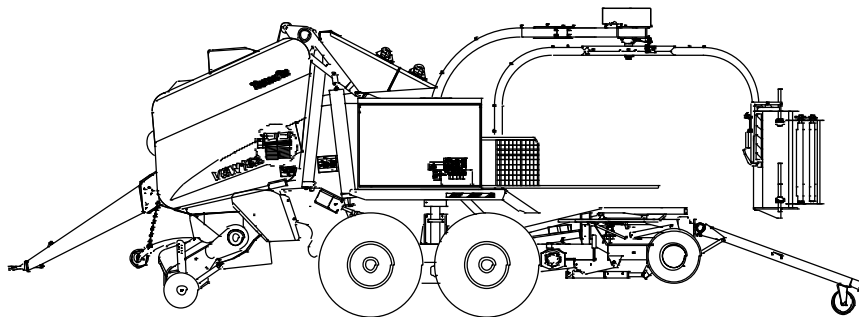
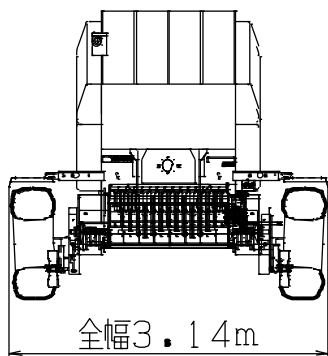
詳細は日農工「公道走行ガイドブック」(<http://www.jfmma.or.jp/kouido.html>)をご覧ください。
その他不明な点は、お買い上げいただいた販売店にご相談ください。

⚠ 安全に作業するために

(5) 公道走行の注意点

本機は、全幅が2.5mを超える作業機です。

そのため、トラクタで連結して公道走行する際は道路管理者(地方整備局、地方自治体等)に対し、個別に特殊車両通行許可を受ける必要があります。



⚠ 安全に作業するために

本製品にはトラクタ運転席・トラクタ後面に表示する、全幅表示と運行速度表示含む各種公道走行用ステッカーは付属していません。
公道走行する際は別途ご用意の上、以下の措置をとってください。

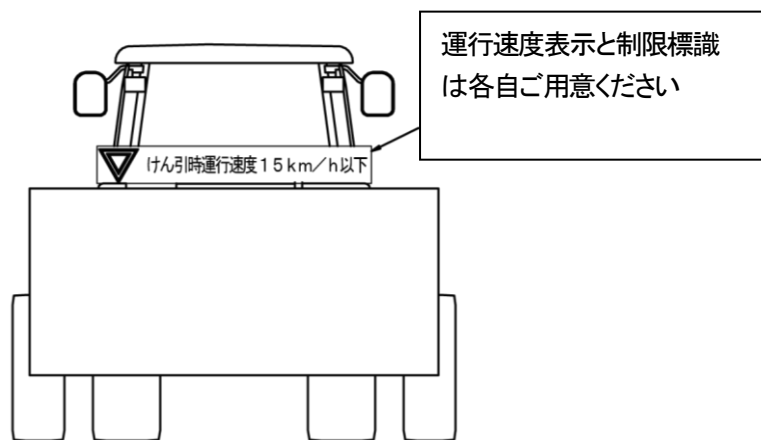
- ・全幅表示には車幅を測定の上、手書きで数値欄に記入してください。
(本機は取り付けるラップマシーン部により車幅が変わります)
- ・型式欄には「VCW1621W」と記入し、運転席から確認できる位置に表示してください。

全幅表示(トラクタ運転席用)

全幅	8.88	m	型式	
00120800000				

運行速度表示(トラクタ運転席用)

けん引時運行速度15km/h以下
00120800000



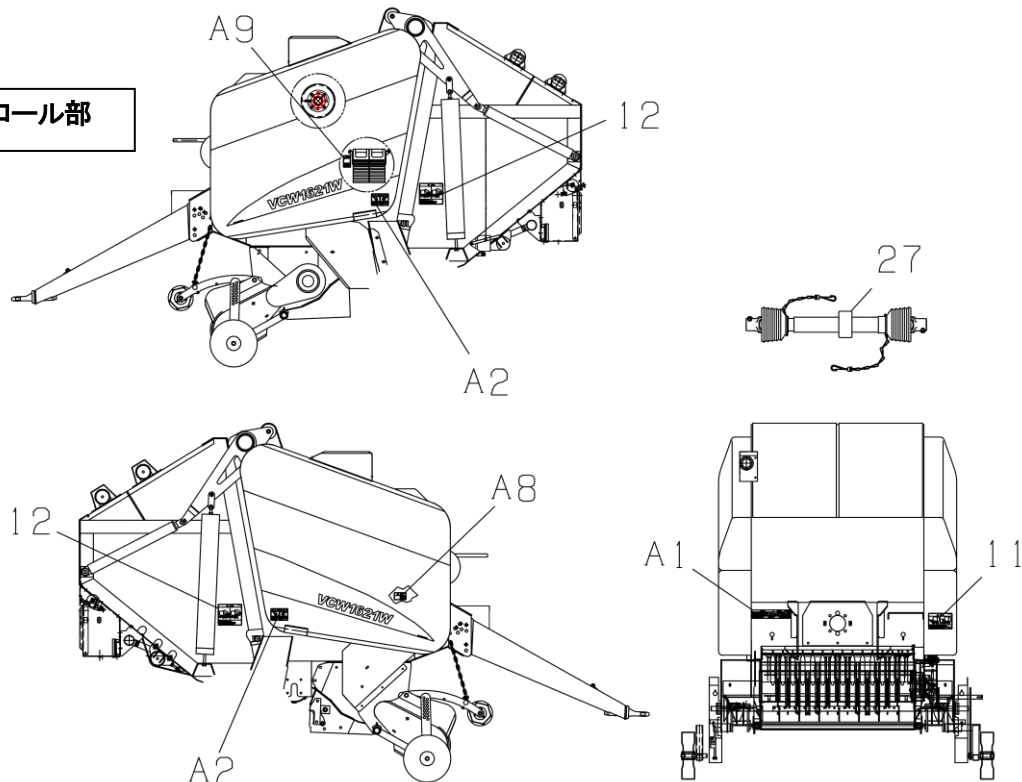
以上、機械の取扱で注意していただく主だった事項を記載しましたが、これ以外にも本文の中で印を付けて安全上の注意事項を表記しております。



安全に作業するために

5.警告ラベルの貼付位置

ロール部



A1-部品コード 001306200640

A8-部品コード 001206000561

注意		警告		危険
1. 電線に触れると事故や故障の原因となりますので、必ず電線被覆を傷めるまで剥き取らないでください。	エンジン停止し、ブレーキをかけるまで待ってください。			
2. 全体的な形状が固定部分に近づいているようにしてください。	7. 点検・調整等はエンジン停止して実施してください。	注意：高速・急停止の発生注意	PTO回転速度は540min ⁻¹ (rpm)以下で作業してください。	作業時周囲の人や物と近づけないこと。
3. エンジン始動前に周囲の周りに人がいないことを確認してください。	8. 手、足及び衣服を運動部分に近づけないようにしてください。			・エンジン使用後は点検や整備をするとき力をつける場合があります。 ・必要に応じてエンジン停止して作業してください。
4. 作業中は人や物と近づかないでください。	9. 荷役作業を実施する際は、必ず公道走行はできません。			転落事故を防ぐためには、急激な点検・取換え時は十分注意してください。 ・注意を怠ると、事故発生の可能性があります。
5. 点検時を避ける場合は、必ず				

注意
・急激な点検・取換え時は十分注意してください。 ・注意を怠ると、事故発生の可能性があります。

A2-部品コード 001306200360

A9-部品コード 001206000750

注意	警告
●カバーは常に装着してください。 ●はずしたまま運転するとケガをする可能性があります。	●ベルト・チェーンが回転中は、手や足を近づけないでください。 ●接触するとケガをする可能性があります。

警告
事故発生の恐れがありますので、駐車・停車時には必ず車輪止めをしてください。

⚠ 安全に作業するために

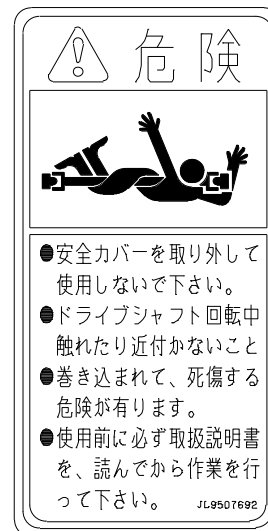
11-部品コード 001306002330



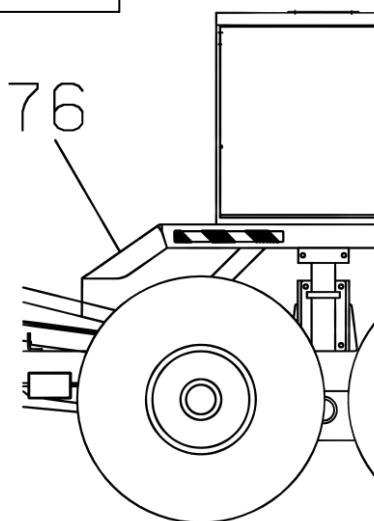
12-部品コード 001206000310



27-部品コード 001306950010



ラップ部



76-部品コード 001306002100



警告ラベルの取扱注意事項

- (1) 警告ラベルはいつもきれいにして傷をつけないように、また汚れている場合、中性洗剤で洗い、柔らかい布で水気を拭いてください。
- (2) 傷ついたり、汚れたり、はがれた場合は、お買い上げの販売店または当社に注文し新しいラベルを元の位置に貼ってください。
- (3) 警告ラベルが貼ってある部品を交換する場合は、新しいラベルを注文して元の位置に貼ってください。
- (4) 新しいラベルを貼る場合は、汚れを拭き取り、乾いた面に貼ってください。
気泡は隅へ押しながら抜いてください。

本製品の使用目的とサービスについて

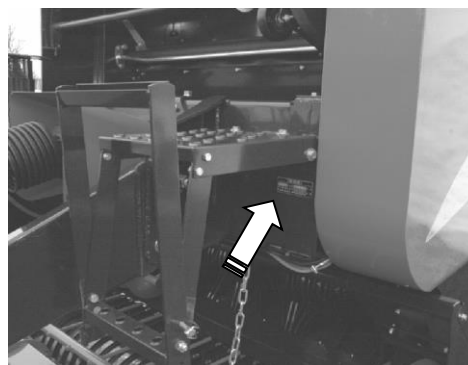
本製品の使用目的について

本製品は、牧草、稲ワラ、麦稈の梱包にご使用ください。
使用目的以外の作業や改造などは、決して行わないでください。
使用目的以外の作業や改造をした場合は、保証の対象になりません。

アフターサービスについて

機械の調子が悪いとき、不調診断に従って
点検・処置しても、なお不具合があるときは、
お買い上げいただいた販売店、農協、または、
お近くの当社営業所・出張所までご連絡く
ださい。

(機体銘板貼付け位置図)



【連絡していただきたい内容】

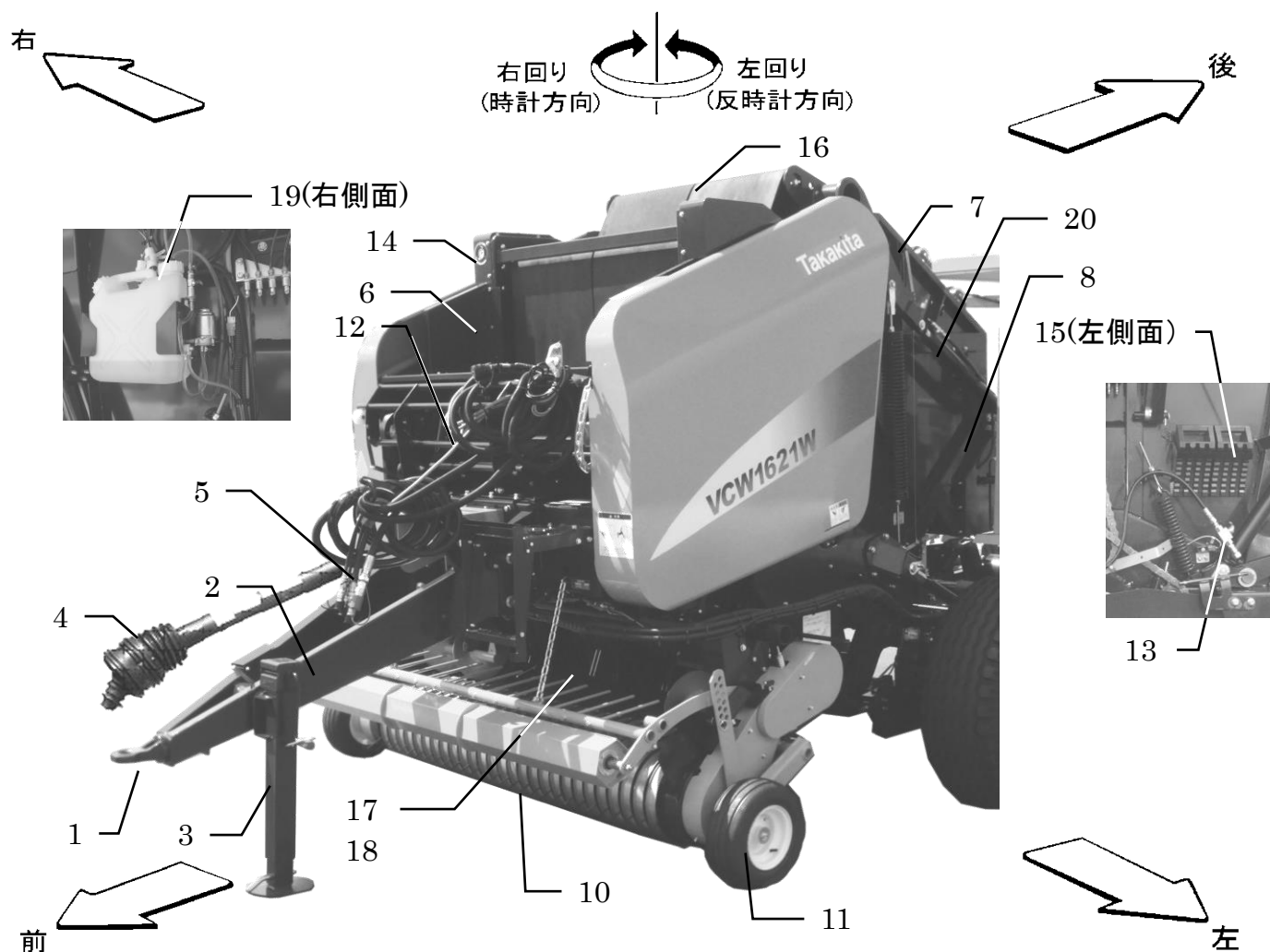
- 品名と型式
- 機体No. (S E R - No.)
- ご使用状況は？
(どんな条件でどんな作業をしていたときに)
- どれくらい使用されましたか？
(約〇〇時間使用后)
- 不具合が発生したときの状況をできるだけ詳しく教えてください。

※機体No.は、上図に示す機体銘板に打刻しております。

【今後の参考のため、次の空欄に機体No.などを記入しておいてください。】

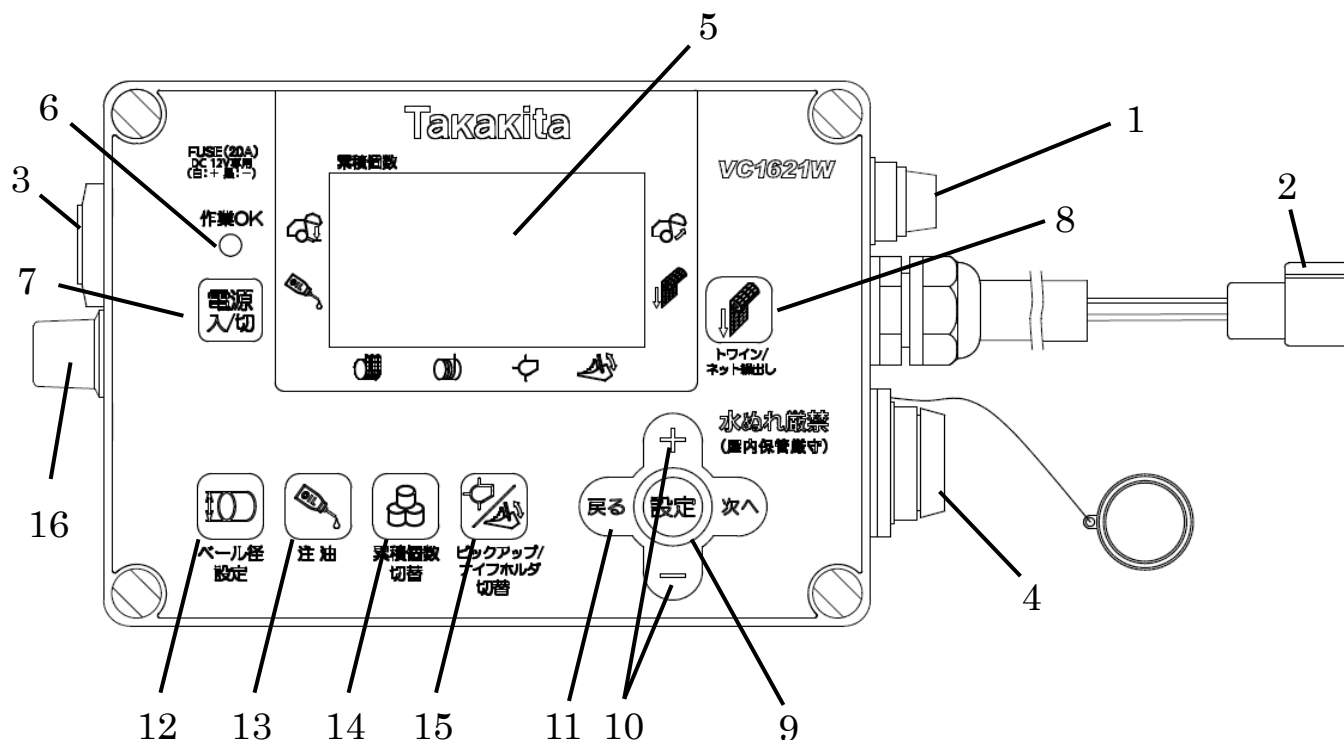
品 名	ノセカエヨウロールベアラ
型 式	V C W 1 6 2 1 W - H
機 体 No. (S E R - No.)	
購入年月日	年 月 日
販 売 店 名	TEL ()

各部の名称とはたらき



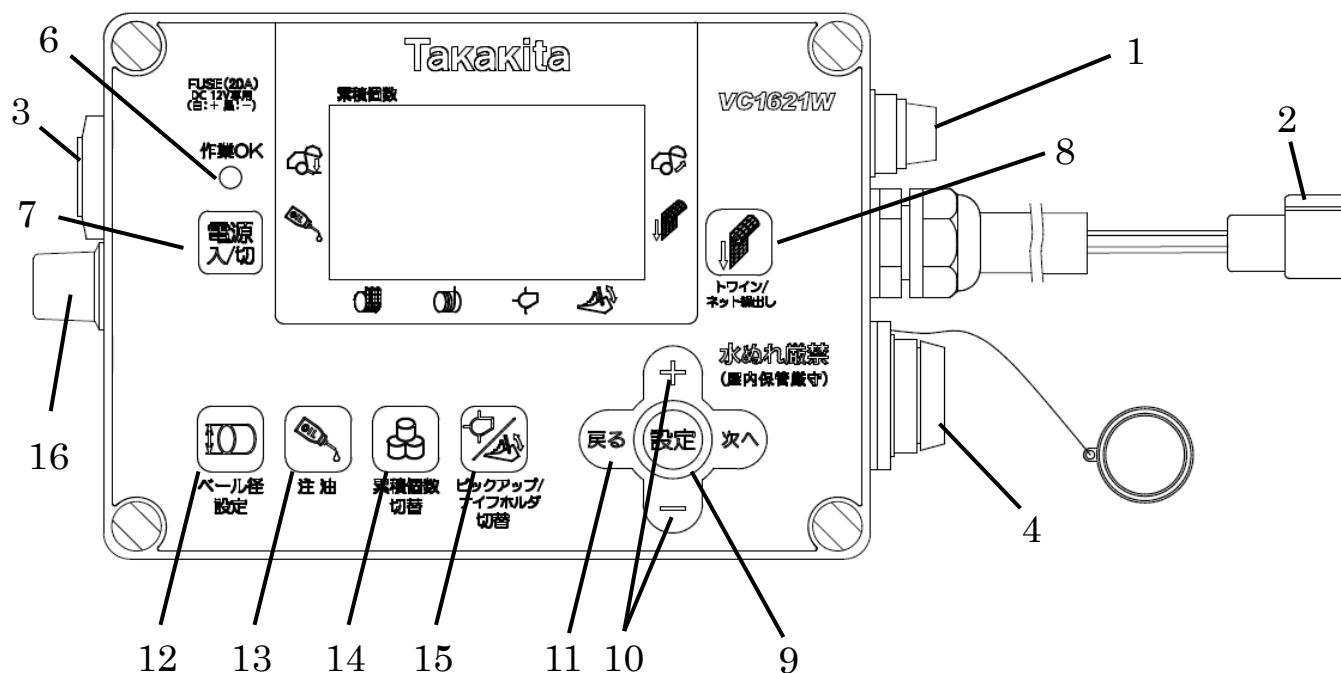
番号	名 称	は た ら き
1	ヒッチ	トラクタと連結
2	けん引かん	トラクタに合わせてヒッチの高さを調整
3	スタンド	トラクタの脱着時にヒッチの高さを調整
4	ユニバーサルジョイント	トラクタからの動力を伝える
5	油圧カプラ	トラクタから油圧の供給を受ける
6	フロントチャンバ	ベールの成形を行う
7	リヤチャンバ	ベールを放出するために開放する
8	ネットボックス	ネットを収納する
10	ピックアップドラム	牧草を拾い上げる
11	ゲージホイール	ピックアップドラムの拾い上げ高さを調節する
12	ネット装置	ネットでベールを結束する
13	シリンダストップバルブ	リヤチャンバを開放して点検するときシリンダを固定する
14	圧力ゲージ	ベールの成形圧力を表示する
15	車輪止め	駐車時に車輪止めをして下さい
16	タイトベルト	拾い上げた牧草をチャンバ内で回転させる
17	カッティングドラム	拾い上げた牧草をチャンバへ強制的に送り込む
18	ナイフ装置	拾い上げた牧草を切断する
19	オイルタンク	チェンへ給油するためのオイルを入れる (タービンオイル ISO VG32を4ℓ)
20	ベルトテンションシリンダ	油圧シリンダでベールの固さを調整します

各部の名称とはたらき(コントロールボックス)



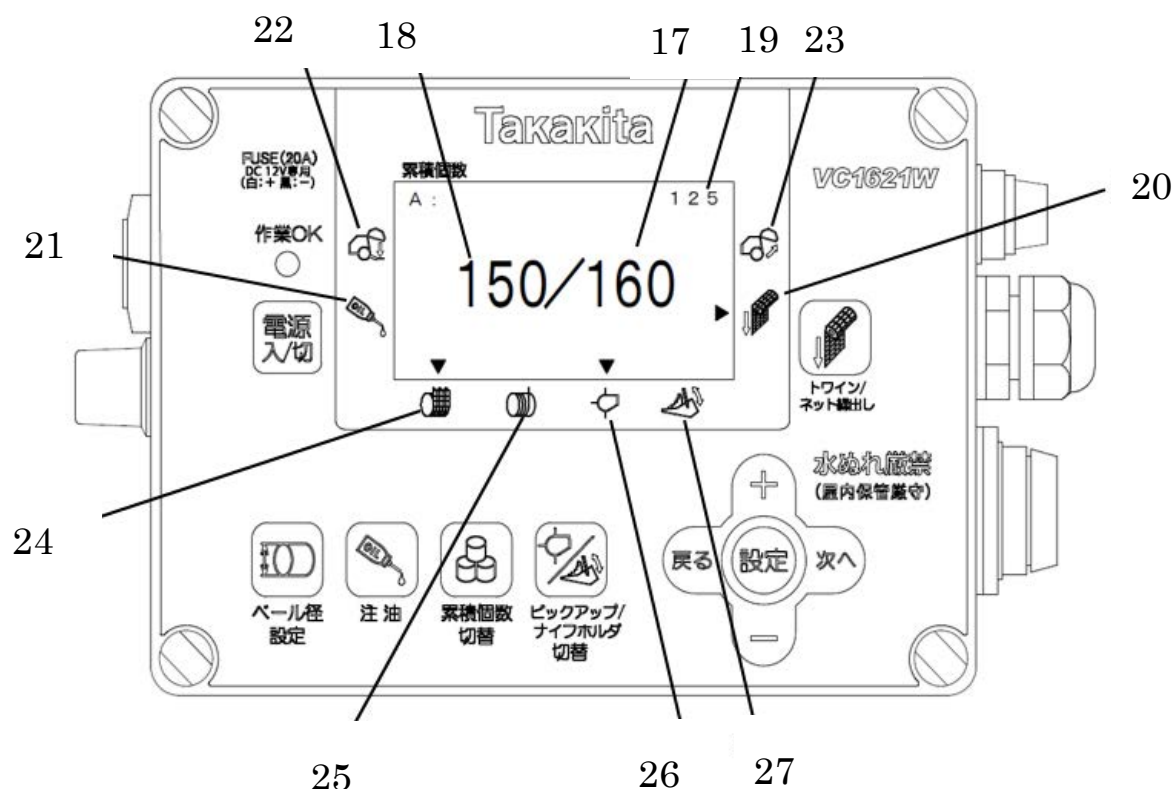
番号	名 称	は た ら き
1	ヒューズ	20A のヒューズが入っています。 ※切れたら原因を取除き、新しいものと交換してください。 ※アンペア数が指定外の異なるヒューズを入れると、故障の原因となりますので行わないでください。
2	電源コネクタ	付属品の電源コードを利用し、バッテリーから直接接続してください。
3	警報ブザー	電源入と同時に「ピッピッ」と鳴ります。 設定ベール径間際で予鈴「ピッピッ…」設定ベール径で本鈴が「ピー」と鳴り続けます。 トワイン/ネット繰出しと同時に「ピー」と鳴り続けます。 作業エラー時に「ピーピー」と鳴り続けます。
4	入出力コネクタ	作業機側コントロールボックスと接続します。
5	液晶画面	作業状態、エラー内容を表示します。
6	作業 OK ランプ	本機が作業を行ってよい時（草を拾ってよい時）に点灯します。 作業 OK ランプが消灯しているときは作業を行わないでください。
7	電源入/切スイッチ	一度長押しするとコントロールボックスの電源が入り、もう一度押すと電源が切れます。
8	トワイン/ネット繰出しスイッチ	設定ベール径の前にベールを結束したいときに使用します。 ※スイッチを押すとトワイン/ネットの強制繰出しを行います。 PT0 が回転していないと繰出しできません。
9	設定スイッチ	各種作業の設定を行います。 ・ ネット巻き数（1.5～4 巻き、0.5 刻みで設定可能） ・ ベール固さ（10 段階で設定可能） ・ ネット/トワイン切替 ・ ソフトコア設定の ON/OFF ・ キッカーセンサの ON/OFF ・ 注油時間（1～60 秒、0.1 刻みで設定可能）

各部の名称とはたらき



番号	名 称	は た ら き
10	+ボタン・-ボタン	作業設定画面のときに押すと設定値が増減します。
11	次へボタン 戻るボタン	表示項目を「次の画面」や「前の画面」に切替えます。
12	ベール径設定 ボタン	ベール径を80cm から160cm まで1cm 刻みで設定できます。 「ベール径設定」スイッチを押しながら + か - ボタンで設定値を 増減します。
13	注油ボタン	自動注油チェン部に注油します。 押し続けると押している間注油され、離してから設定秒間注油します。
14	累積個数切替 ボタン	累積個数 A と累積個数 B の表示を切替えるときに使用します。 「累積個数切替ボタン」を長押しすることで累積個数をリセットできます。
15	ピックアップ/ ナイフホルダ切替 ボタン	「ピックアップ」と「ナイフホルダ」の作動を切り替えます。(オプション)
16	ボリュームスイッチ	警報ブザーの音量を調整します。

各部の名称とはたらき



番号	名称	は た ら き
17	設定ボール径	設定したボール径が表示されます。
18	ボール径	現在のボール径が表示されます。(75cm～表示)
19	累積個数	作ったボールの個数が表示されます。
20	トワイン/ネット繰出しマーク	動作表示：トワイン/ネットを繰出しています
21	注油マーク	動作表示：注油しています
22	キッカー降警告マーク	警告表示：キッカーが降りています
23	チャンバ開警告マーク	警告表示：チャンバが開いています
24	ネット巻き設定マーク	設定表示：ネット巻き設定
25	トワイン巻き設定マーク	設定表示：トワイン巻き設定
26	ピックアップ昇降設定マーク	設定表示：ピックアップ昇降設定(オプション用)
27	ナイフホルダ昇降設定マーク	設定表示：ナイフホルダ昇降設定(オプション用)

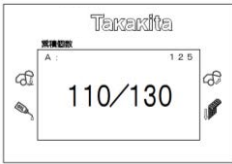
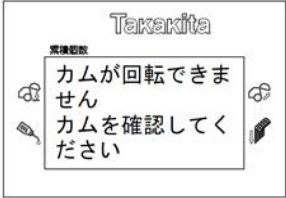
各部の名称とはたらき

◆はたらき

『ディスプレイ』に、ロールベアラ部の作業状態や異常状態を表示します。

また、異常発生時は緊急度に応じて、ブザー警報を行います。

記号の見かたは次のとおりです。

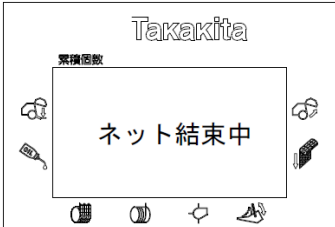
表示・機能	内容	正常時	異常時
ディスプレイ	ロールベアラ部の作業状態やセンサ異常について、文字で表示します。		
ブザー警報	異常時やネット交換、作業完了時にブザーが鳴ります。	—	 連続音  断続音

◆表示内容

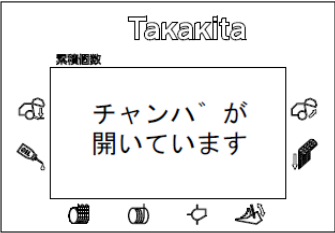
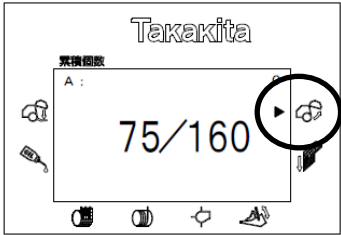
操作	表示内容	ディスプレイ画面	ブザー
電源スイッチを押してください。	バージョン情報表示 ※電源を入れた時にカムが初期位置にない場合自動的にカムが初期位置まで回転します。 初期画面表示	  	

各部の名称とはたらき

◆作業時のコントロールボックス表示

ランプ	表示内容	ディスプレイ画面	ブザー
 点灯	1. メイン画面 	チャンバ内が空またはベール径が75cm 未満のときに左図の画面が表示されます。 全てのセンサに異常がなければ「作業OK」ランプが点灯し作業を開始することができます。	
	2. 予感知 	チャンバ内のベール径が設定ベール径の90% に達したときに予鈴が鳴ります。	 断続音
	3. 満了感知 	チャンバ内のベール径が設定ベール径に達したときに本鈴が鳴ります。	 連続音
 消灯	4. ネット繰出し 	設定ベール径に達すると「作業OK」ランプが消灯し、ネットが繰出され、ネット繰出しマークの横に「▶」マークが表示されます。	 連続音
	5. ネット結束 	ネットが繰出された後にネットの結束が始まり、液晶には「ネット結束中」の画面が表示されます。	
	6. 巻き付け完了 	トワイン/ ネットの結束が終わるとネット切断用のナイフが降り、液晶には「巻き付け完了」の画面が表示されます。	 連続音

各部の名称とはたらき

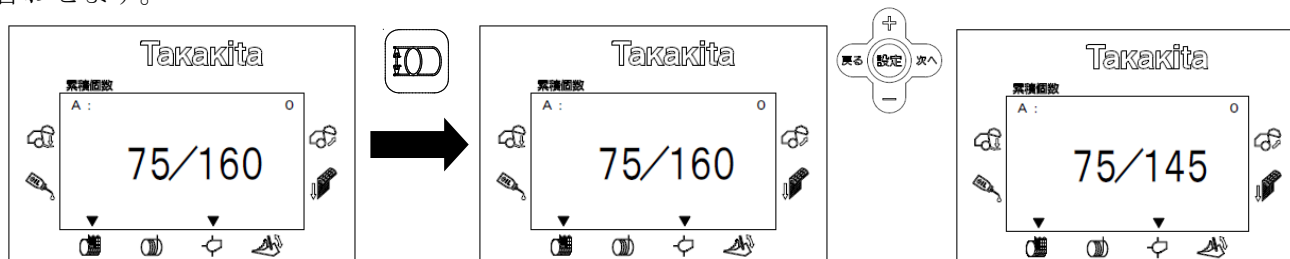
ランプ	表示内容	ディスプレイ画面	ブザー
	7. チャンバ開  ↓ 	ベール放出のためにチャンバを開くと「チャンバが開いています」の警告が出ます。 ベールの放出は、ラップマシン側のコントロールボックスで行います。	
 点灯	8. チャンバ閉 	ベールが放出されチャンバを閉じると累積個数が+1 され「作業OK」ランプが点灯します。 チャンバは、ラップマシン側にロールが搬送されると、自動で閉じます。	

各部の名称とはたらき

◆設定方法

【ベール径の設定】

初期画面で「ベール径」設定ボタンを押しながら「+」「-」ボタンを押して設定したいベール径に合わせます。



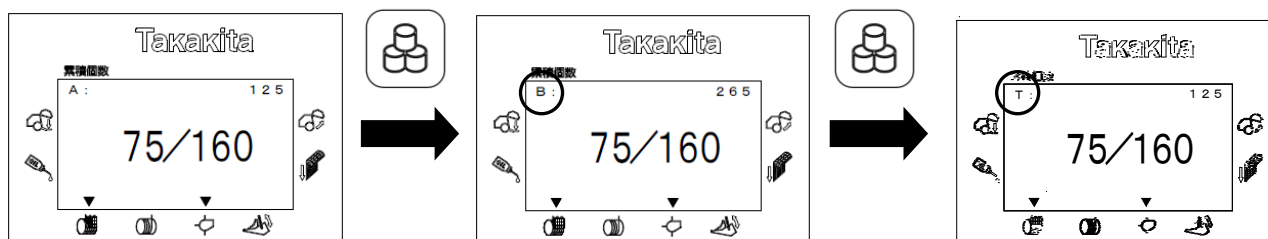
【チェン注油】

初期画面で「注油」ボタンを押します。
一度押すと自動注油チェンに設定秒間注油されます。
押し続けると押している間注油され、離してから設定秒間注油します。
ボタンが押されてから3秒後に初期画面に戻ります。



【ベール累積個数切替】

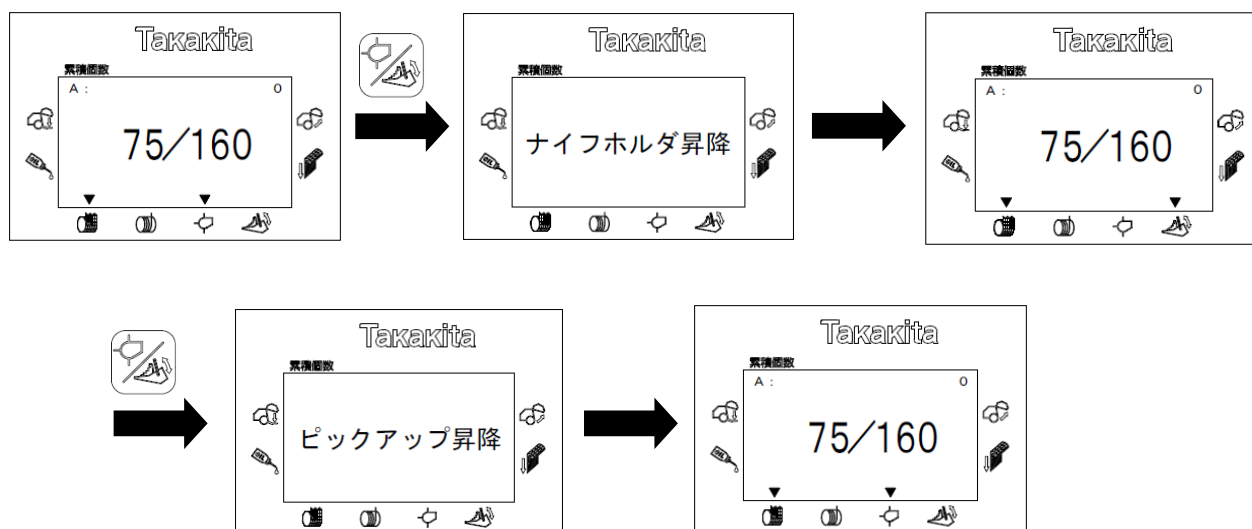
「累積個数切替」ボタンを押すごとに「A」と「B」と「T」の表示を切替えることができます。
個数のカウントをリセットするには、「累積個数切替」ボタンを長押しします。
T:は使い始めからのトータル個数を表示します。(T:のカウントはリセットできません)



各部の名称とはたらき

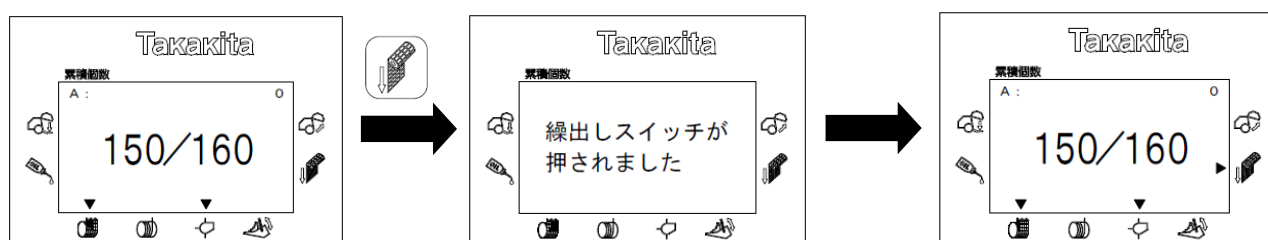
【ピックアップ/ ナイフホルダ切替】（オプション）

「ピックアップ/ ナイフホルダ切替」ボタンを押すごとに「ピックアップ」と「ナイフホルダ」の作動を切替えることができます。



【トワイン/ ネット繰出し】

「トワイン/ ネット繰出し」ボタンを押すと規定量のトワインまたはネットが繰出します。ボタンが押されてから3秒後に初期画面に戻ります。



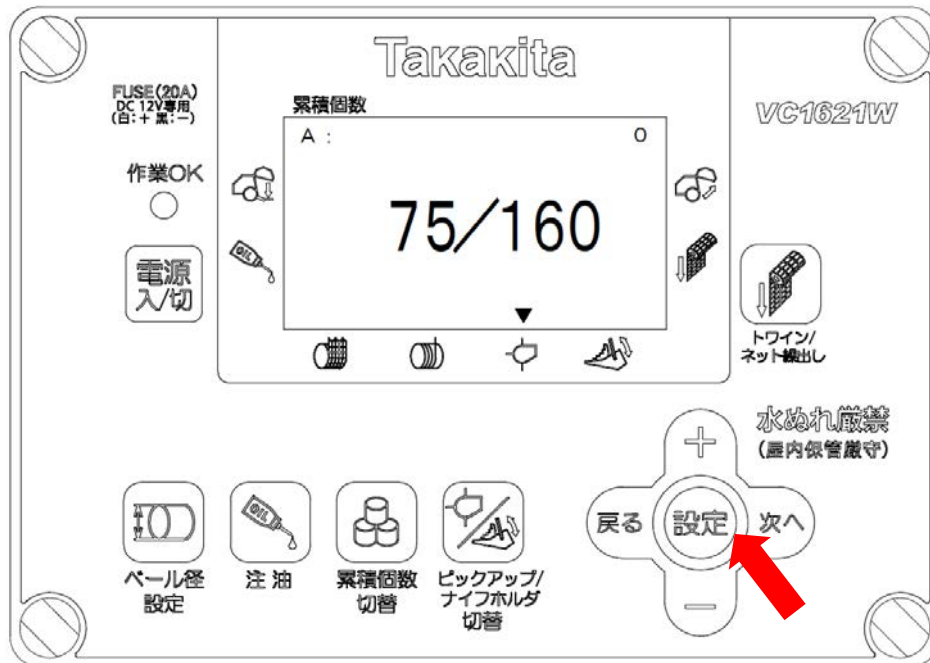
各部の名称とはたらき

◆ 設定モード

6つの項目の「作業設定」を変更することができます。

〔設定モードへの移行のしかた〕

(1) 初期画面の状態から「設定」ボタンを押します。



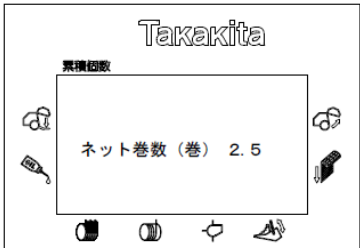
(2) 「戻る」または「次へ」ボタンで設定項目を表示させます。

(3) 「+」または「-」ボタンで設定値を変更します。



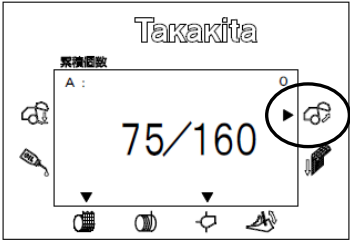
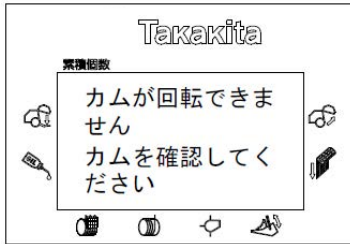
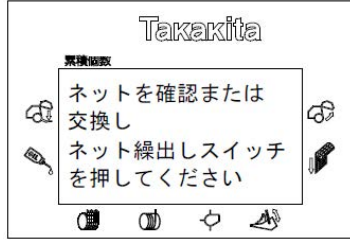
(4) 設定完了後、「設定」ボタンを押し初期画面へ戻ります。

各部の名称とはたらき

[設定モード項目]			
設定項目	表示画面	初期値	設定範囲
ネット巻数		2.5	1.5 ～ 4 巻 (0.5 刻み)
ボール固さ		8	1 ～ 10 (1 刻み) (注1)
「ネット」「トワイン」切替		ネット : 1	
ソフトコア切替		OFF : 0	
キッカーセンサ切替		OFF : 0	※キッカーセンサの設定は常にOFF にして作業を行ってください。
給油時間		2.0	1～60 (0.1刻み) ボール10個ごとに設定秒間自動給油を行います。

注1. ボール加圧油圧回路のチェックを行えるよう、ボール固さ設定画面を表示中にチャンバを開くと正常であれば設定ボール固さに応じて油圧圧力ゲージの針が動きます。

各部の名称とはたらき

[コントロールボックスの警告・エラー表示]			
警告・エラー名称	警告・エラー内容	液晶表示	ブザー音
ナイフホルダ降警告	ナイフホルダが降りているときに出る警告です。 液晶表示：ナイフホルダが降りています ブザー：ピー、ピー（断続音）		 断続音
チャンバ開警告	チャンバが開いているときに出る警告です。 液晶表示：チャンバが開いています ブザー：ピー、ピー（断続音） 右図上の液晶表示の後に右図下の画面に切り替わります。	  	 断続音
カム回転エラー	ネット繰出しの際にカムが回転できないときに出るエラーです。 液晶表示：カムが回転できません カムを確認してください ブザー：ピー、ピー（断続音）		 断続音
ネットカウントエラー	ネット繰出しおよび結束中にネットがチャンバ内に入っていないときに出るエラーです。 液晶表示：ネットを確認または交換しネット繰出しスイッチを押してください ブザー：ピー、ピー（断続音）		 断続音

各部の名称とはたらき

◆メーカー設定モードの表示と変更方法

- ・「+ボタン」「-ボタン」を押しながら、コントロールボックスの電源を入れてください。
- ・「次へボタン」または「戻るボタン」で変更したい設定項目に移動します。
- ・「+ボタン」または「-ボタン」で設定値を変更できます。
- ・設定後電源を切ると記憶します。

※無闇な設定変更は動作不良に繋がりますので、絶対にしないでください。

変更する場合は販売店へご相談ください。

設定項目	説明	初期値	設定可能範囲
片寄りセンサ感度	片寄りセンサの反応感度を調整 (VCW1621W は片寄りセンサ無)	7	1～10 (1秒刻み)
ネット繰出量(巻)	ネットの繰出し量調整が行えます。	0.5	0.1～4.0 (0.1巻刻み)
トワイン繰出時間(秒)	トワインを繰出す時間を設定できます。(オプション)	8	1～30 (1秒刻み)
ネット繰出遅延時間(秒)	満了感知後、設定した時間が経過してからネット繰出しを行います。	0	0～10 (1秒刻み)
センサチェック	各センサの ON/OFF とカウント数を表示します。 (詳細は 35 ページを参照)	—	—
ソフトコア固さ	ソフトコア設定径までの圧力を設定できます。	1	0～4
ソフトコア径(%)	ベール直径に対するソフトコア率を設定できます。	70	50～90 (1%刻み)
バックアップモード	カウントセンサに不具合があったとき、タイマーでネット巻きできます。	0(OFF)	ON:1 OFF:0
バックアップ繰出し時間(秒)	バックアップ繰出し時、ネットを繰出す時間を設定。	5	1～10 (1秒刻み)
バックアップ結束時間(秒)	バックアップ結束時、ネットを結束する時間を設定できます。	15	1～60 (1秒刻み)
予鈴タイミング(%)	予鈴が鳴り始めるタイミングを設定できます。	90	80～99 (1%刻み)
本鈴タイミング(%)	本鈴が鳴るタイミングを設定できます。	100	90～100 (1%刻み)

各部の名称とはたらき

設定項目	説明	初期値	設定可能範囲
電圧警告 (V)	設定電圧以下になると低電圧警告が表示されます。	11. 4	9. 8～12. 5 (0. 1刻み)
CHAM_ON_T(秒) (作業 OK ランプ点灯 タイミング調整)	ボール放出後、チャンバが閉まってから作業 OK ランプが点灯するまでの時間を調整できます。	1. 0	0.1～3.0
SEN_T_O (秒)	設定秒の間ネット繰出しカムセンサが反応しないと、カムセンサ異常をだします。	10	0～10
CNT_T_O (秒)	設定秒の間ネット回転検出センサが反応しないと、ネット異常エラーを出します。	5	0～10
DIA_OFFSET	設定したボール径と出来上がったボール直径が違っている場合に調整を行います。 出来上がりボールを大きくしたいときは数値を減らしてください。小さくしたいときは数値を増やしてください。	57	40～70
katayori	片寄りセンサが付いている機種に対応する際に使用します。 (VCW1621W は片寄りセンサ無)	0 (OFF)	ON:1 OFF:0

各部の名称とはたらき

◆センサチェック表示

- ・メーカー設定モード内のセンサチェック項目です。
- ・各センサの取付位置は70ページ・付表4. 構成部品の位置を参考にしてください。

確認項目	説明
チャンバ右 チャンバ左 オーバサイズ カム1 カム2 ナイフホルダ トワインガイド キッカー	チャンバ閉右センサの状態を確認できます。(ON:0 OFF:1) チャンバ閉左センサの状態を確認できます。(ON:0 OFF:1) 取り付けしていないセンサです。(OFF:1) ネット繰出しカムセンサ1の状態を確認できます。(ON:0 OFF:1) ネット繰出しカムセンサ2の状態を確認できます。(ON:0 OFF:1) ナイフホルダセンサの状態を確認できます。(ON:0 OFF:1) トワインセンサの状態を確認できます。(ON:0 OFF:1) キッカーセンサの状態を確認できます。(ON:0 OFF:1)
ベールサイズ ベール右センサ ベール左センサ カウント バッテリー電圧 トータル	ベールサイズセンサの値を確認できます。(0～255) 取り付けしていないセンサです。 取り付けしていないセンサです。 ネット繰出し量カウントセンサの状態を確認できます。 バッテリー電圧の値を確認できます。(V 表示ではありません) 成型したベール個数(ソフトを書き変えない限りリセットされません)

トラクタへの装着

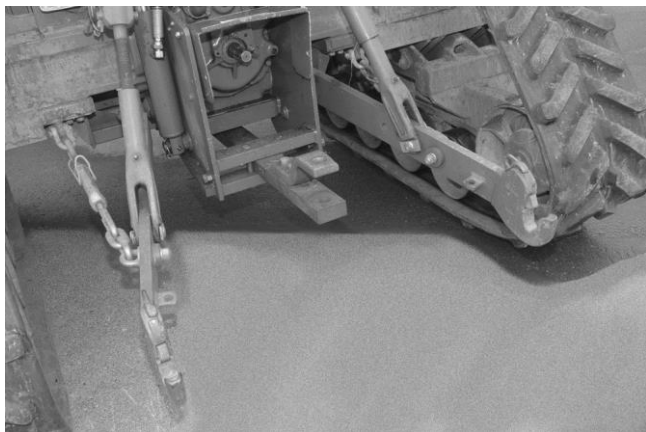
⚠ 警告

- トラクタへの本機装着は、平坦で安定した場所で行ってください。
 - ドローバへの装着はトラクタの動きに十分注意し、2人以上の共同作業では、お互いに声を掛け合うなどして、安全を確かめ合いながら作業してください。
 - ユニバーサルジョイントの接続は、必ずトラクタのエンジンを止め、P T O クラッチを切ってから確実に取付けてください。
- 以上のことを守らないと傷害発生の恐れがあります。

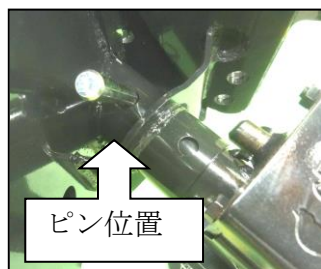
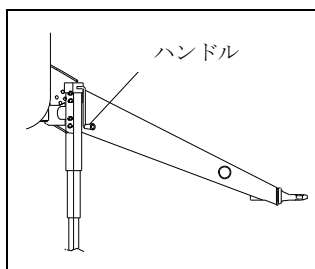
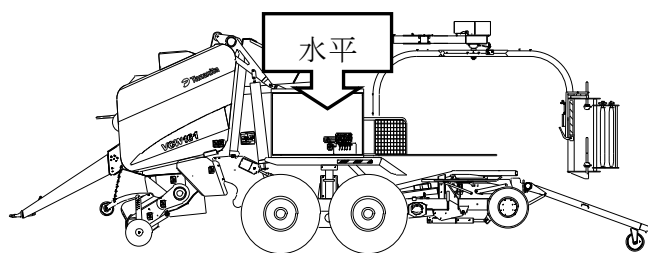
1. ドローバへの装着のしかた

◆ ドローバへの装着のしかた

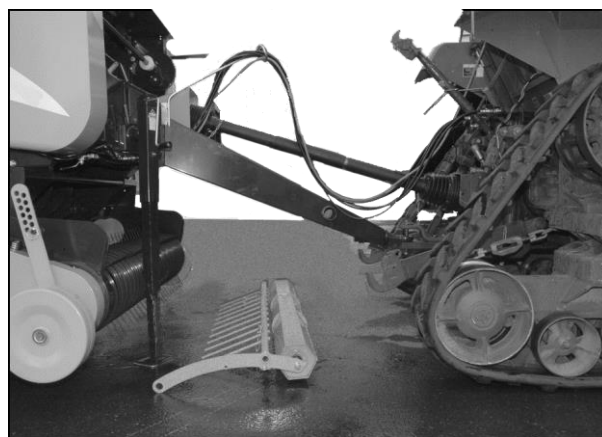
- (1) トラクタのドローバを一番短い位置にしてください。



- (2) ロールベアラのスタンドのハンドルを操作してラップ側のフレームをほぼ水平にしてください。スタンドのピンは必ず、奥側の穴を使用してください。



- (3) トラクタを後進させて、本機のヒッチ高さをトラクタのドローバ高さに合わせてください。

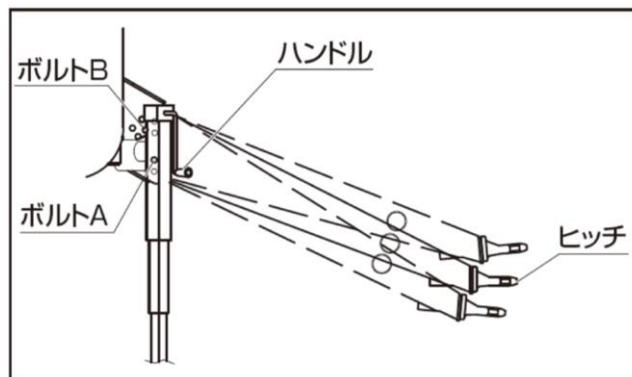


- (4) ボルトA、Bを外しヒッチをドローバに合った位置でボルトA、Bを締め付けてください。

締め付けトルクは755～920 N・mです。

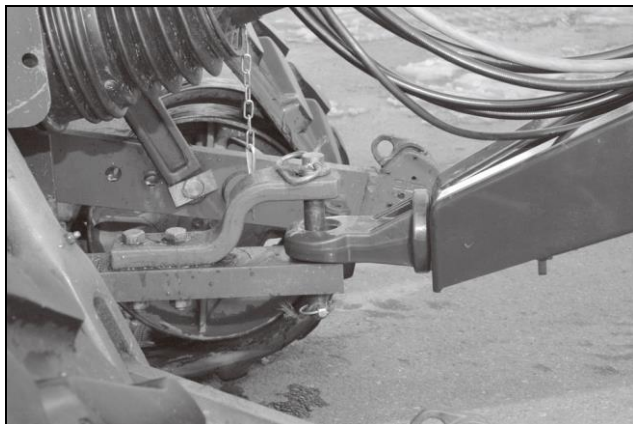
《 メモ 》

ヒッチを180° (度) 回すと20mmの微調整ができます。

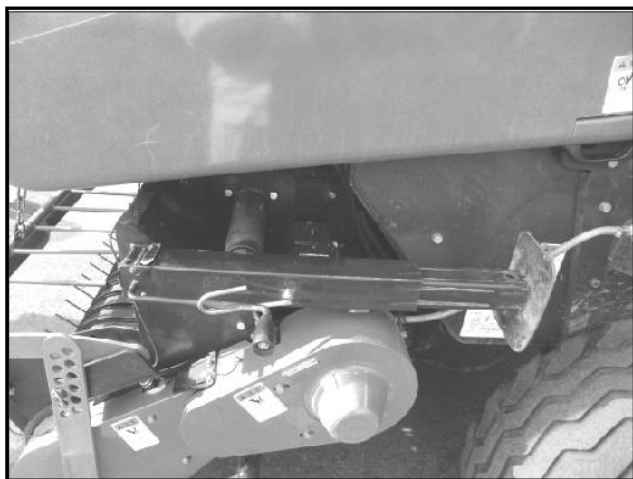


トラクタへの装着

- (5) トラクタを後進し、ドローバの穴位置にヒッチ穴を合わせてヒッチピンで確実に装着してください。



- (6) スタンドを短く縮めてからストッパーピンを外し、スタンド本体を機体左側のスタンドホルダに挿しこみ、ストッパーピンにて固定してください。



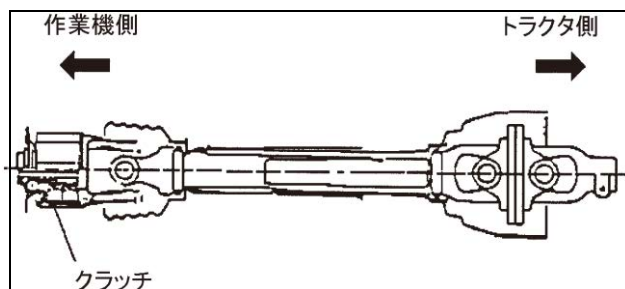
2. ユニバーサルジョイントの取付け

◆ ユニバーサルジョイントの取付け順序

本機入力軸に取付けてから、トラクタPTO軸に確実に取付けてください。

注意

下図のようにクラッチ側を作業機に取付けてください。

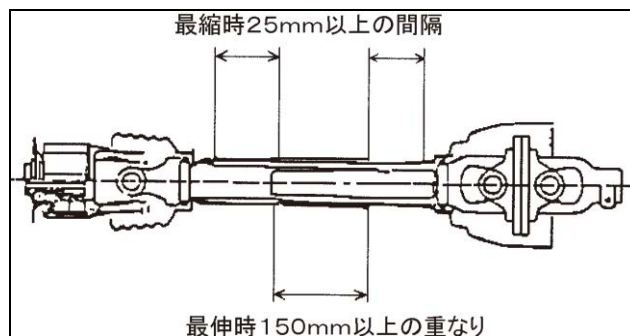


◆ ユニバーサルジョイントの長さ確認

ジョイントの長さは本機が旋回するときに変化します。

先に、ジョイントが長過ぎないかを確認してください。

長すぎるときは、下図の寸法が確保できるように切断してください。



注意

作業時のジョイント角度は作業機側で最大 25° （度）、トラクタ側ワイドアングル側で 60° （度）を越えないよう調整してください。

※ 25° （度）及び 60° （度）を超えるとジョイント破損の原因となります。

トラクタへの装着

◆ カバー回転止めチェーンで固定を

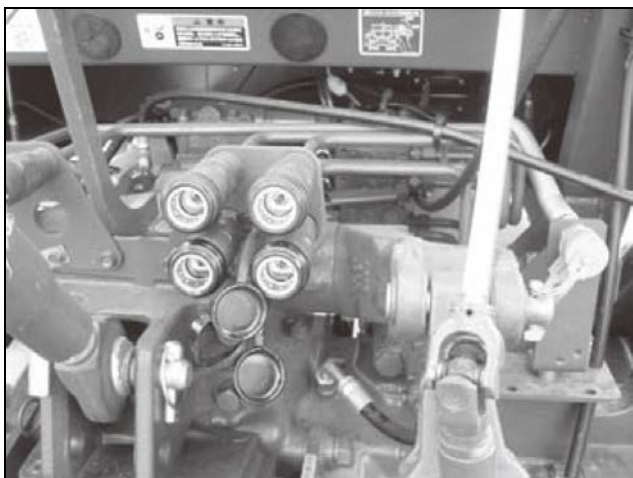
ユニバーサルジョイントのカバーが回転しないように、チェーンに余裕をつけて、しっかりと固定してください。

3. 油圧ホースの接続

◆ 接続は残圧を抜いてから

(1) トラクタのエンジンを停止し、トラクタの油圧操作レバーを動かして残圧を抜いてください。

(2) 複動2系統、単動1系統を接続します。



- ・単動1系統（細いホース）はピックを上下に動かします。
- ・複動1系統（中・太いホース各1本）は、後方のバルブを操作する油圧ホースです。油圧バルブの手動レバーを操作し、作動を確認してください。
- ・複動1系統（細いホース）はナイフホルダ上下を動かします。

注意

- 油圧ホースを取外すときは、トラクタのエンジンを停止した後、トラクタの油圧レバーを動かして残圧を抜いてください。
- 油圧ホースをトラクタから外したときは、必ず付属のダストキャップをカプラに差し込み、ゴミや傷を付けないようにしてください。

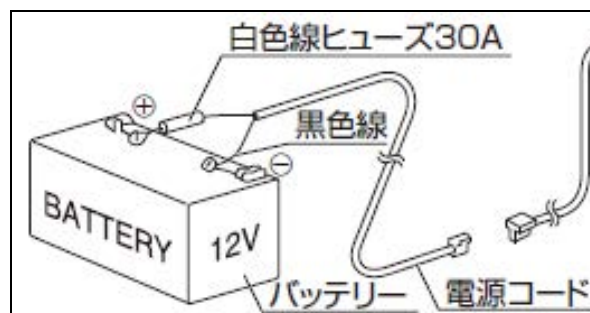
4. コントロールボックスの接続

◆ 電源の取出し

コントロールボックスの電源は、トラクタのバッテリーより取出します。

◆ 接続できるバッテリーの電圧は12Vです
24Vのバッテリーには接続しないでください。間違って接続すると、コントロールボックス内部の機器が破損します。

◆ (+)、(-) の接続を間違えないように
白色線はバッテリーの (+) へ接続
黒色線はバッテリーの (-) へ接続



注意

- (+) (-) の接続を間違えると、コントロールボックスは作動しません。
 - バッテリーの容量不足はコントロールボックスの誤動作の原因になります。十分に充電されたバッテリーを使用してください。
 - 接続の順序は (+) 側から行ってください。また、取外すときは (-) 側から行ってください。
- ※ 逆にすると、火花が飛び危険です。

トラクタへの装着

◆ コントロールボックスの取付け

コントロールボックスまたは、コントロールボックス取付け台の裏側に吸盤を装着してあります。

操作のしやすいようにトラクタのウインドなどに吸着させて取付けてください。

◆ 配線の接続

電源コードと作業機側コードをそれぞれコントロールボックスに接続します。

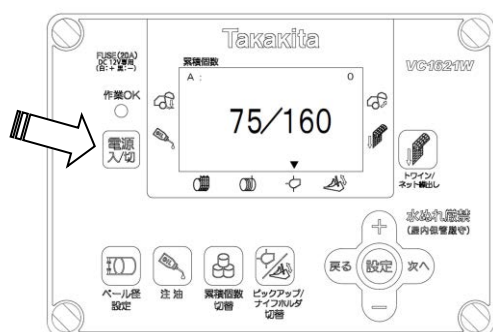
配線が作業の邪魔にならないようにトラクタに固定してください。

◆ 液晶画面表示の確認

配線の接続が終了したら、電源を入れ液晶画面が表示されていることを確認してください。

液晶画面が表示されないときは、電源コードのヒューズ（30A）が切れていないか、バッテリーの（+）と（-）が逆になっていないか、コネクタがきちんと差し込まれているかを確認してください。

- ・コントロールボックスのヒューズ
ロールベアラ側 20A



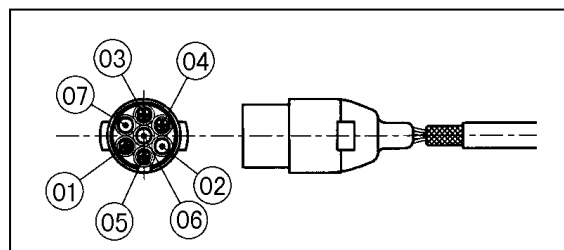
◆ 作業終了後は取外して屋内保管

作業終了後は、電源コード・作業機側コードのコネクタより切り離し、水などがかからない屋内に保管してください。

精密機器ですので湿気の少ない乾燥した場所で保管ください。

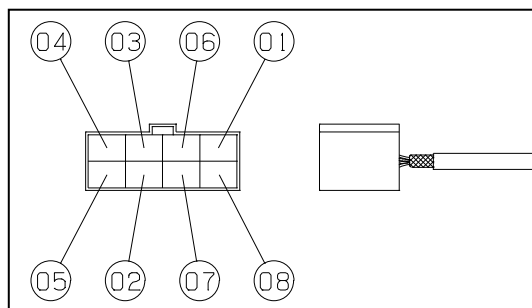
5. 灯火の接続

● DIN規格 7P コネクタ



端子No.	配線色	接続機器
①	白色線	アース
②	黒色線	尾灯・番号灯・車幅灯
③	黄色線	方向指示灯（左）
④	赤色線	制動灯
⑤	緑色線	方向指示灯（右）
⑥		（未使用）
⑦	茶色線	後退灯

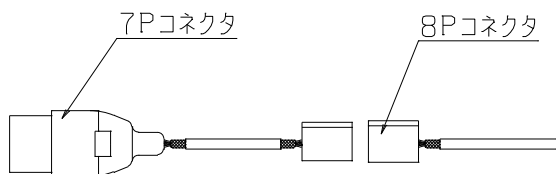
● 日農工規格 8P コネクタ



端子No.	配線色	接続機器
①	白色線	アース
②	黒色線	尾灯・番号灯・車幅灯
③	黄色線	方向指示灯（左）
④	赤色線	制動灯
⑤	緑色線	方向指示灯（右）
⑥		（未使用）
⑦	茶色線	後退灯
⑧		（未使用）

トラクタへの装着

8P コネクタでトラクタに接続する場合は、先端の 7P コネクタを外して使用してください。



6. 後方モニターの接続

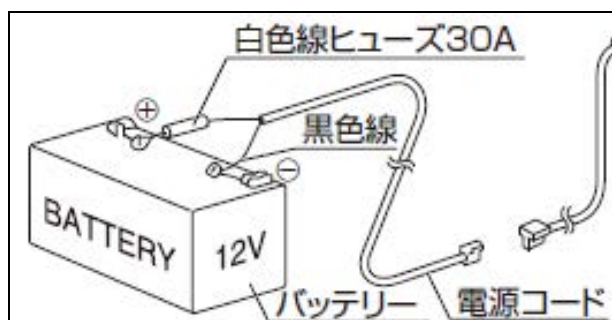
◆ 電源の取出し

モニターの電源は、トラクタのバッテリーより取出します。

◆ (+)、(-) の接続を間違えないように

白色線はバッテリーの (+) へ接続

黒色線はバッテリーの (-) へ接続



注意

- (+) (-) の接続を間違えると、映りません。
- バッテリーの容量不足は誤動作の原因になります。十分に充電されたバッテリーを使用してください。
- 接続の順序は (+) 側から行ってください。また、取外すときは (-) 側から行ってください。
※ 逆にすると、火花が飛び危険です。
- 夜間は、後部補助作業灯を点灯して下さい。

◆ 配線の接続

電源コード、カメラ接続用ハーネスおよびモニターケーブルを接続します。

配線が作業の邪魔にならないようにトラクタに固定してください。

※詳細はモニターの取扱説明書をご覧ください。

◆ モニターの取付け

モニターは、トラクタのルームミラー等に固定して下さい。

操作のしやすいように落ちないように確実に固定してください。



◆ モニター表示の確認

配線の接続が終了したら、スイッチを入れモニターが後方を映していることを確認してください。

映らない時は、電源コードのヒューズが切れていないか、バッテリーの (+) と (-) が逆になっていないか、コネクタがきちんと差し込まれているかを確認してください。

トラクタへの装着



◆ 作業終了後は取外して屋内保管

作業終了後は、電源コード・カメラ接続用ハーネスおよびモニターケーブルより切り離し、水などがかからない屋内に保管してください。

精密機器ですので湿気の少ない乾燥した場所で保管ください。

運転に必要な装置の取扱

1. ベール直径、密度の取扱い

◆ ベール密度の設定

ベール密度は、コントロールボックスで設定します。

乾草の場合は、設定圧力を低めに設定し、ソフトコアを使用することをお勧めし、短い乾燥の場合で、つまりが発生するときは、設定圧力を落としてみてください。（31ページ）

ベール固さは8の設定が標準です。

必要に応じてサイレージの場合は設定値を高く、乾草の場合は設定値を低くしてください。

◆ ベール直径設定

設定範囲 サイレージ：155～160cm
 乾草 ：155～160cm

注意

サイレージの時は、最大ベール重量が1000kg以下になるように設定してください。

2. 累積表示の取扱

ベールの放出ごとにカウントします
コントロールボックスのディスプレイに表示されます。

◆ ロールベアラ側コントロールボックス

ネットを繰出し、ベールを放出する（リヤチャンバを開けたとき）ごとにカウントし、完成ベールの数を表示します。（リヤチャンバを開けただけではカウントされません。）



3. ピックアップドラムの高さ調整

拾い上げ高さの調整は左右のゲージホイールによって行います。

トラクタの油圧を操作しピックアップドラムを上げピック高さ調整プレートの穴位置を変えて、高さを合わせてください。

左右ホイールは同じ高さに調節してください。

ピックアップドラムの拾い上げ高さは、ピックアップティンが地面から約20～30mm程度の高さが標準ですが、ほ場の状態に合わせて調整してください。

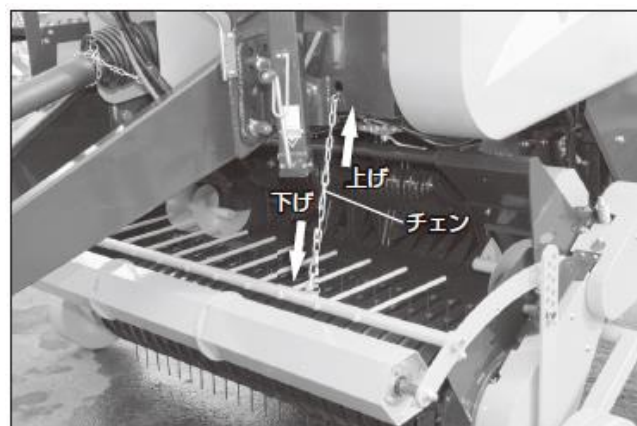


4. グラスプレスローラの高さ調整

グラスプレスローラがウインドローに軽く触れるぐらいに調整してください。

グラスプレスローラの高さ調整は、チェーンの長さによって調整が出来ます。

左右のチェーンは同じ長さになるように調整してください。



運転に必要な装置の取扱

5. ステップの使用法

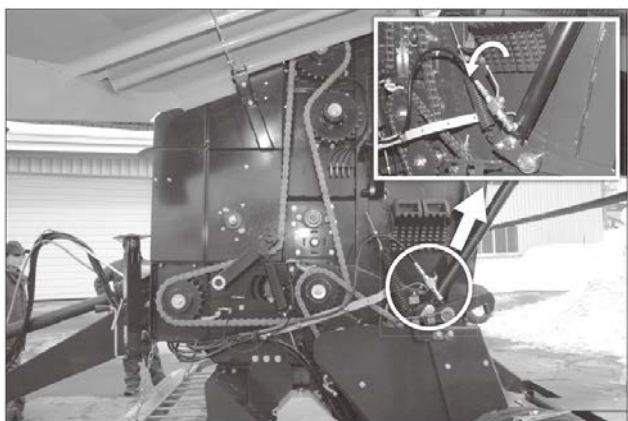
トワインなどの装填時は、ステップを下げて本機に上がってください。



6. リヤチャンバの下降防止

◆ 油圧シリンダをロックし、下降防止をする

点検・整備・清掃などでチャンバを開けたままで作業するときは、必ず左シリンダストップバルブのレバーを開の方向に回してシリンダをロックします。



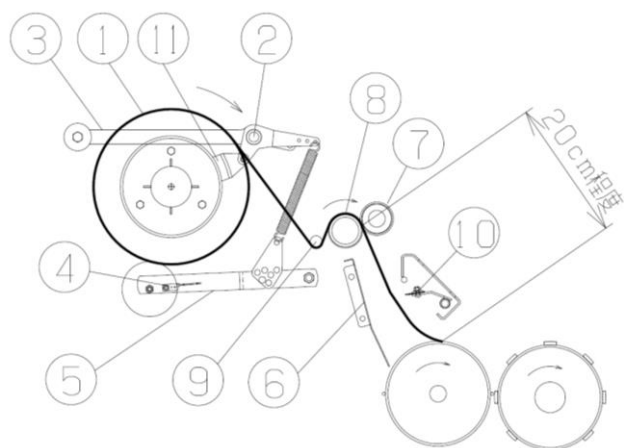
注意

- ・再びチャンバの開閉をする時は、必ず左シリンダのストップバルブを開の方向にしてください。
- ・チャンバを開けた状態でストップバルブを閉から開に切替えた時、少しチャンバが下がる事があるので注意してください。

7. ネットの取付けと通し方

◆ ネットは下図のように通してください。

ネットの先端は、ゴムローラより約20cm垂れ下げてください。

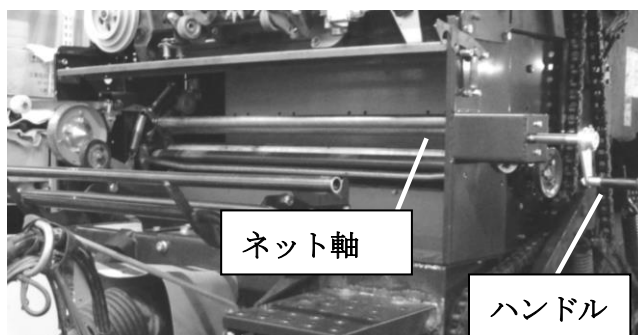


- ①. ネット
- ②. ブレーキアーム軸
- ③. ブレーキアーム
- ④. ネット回転センサ
- ⑤. テンションアーム
- ⑥. スベリ板
- ⑦. ローラ
- ⑧. ゴムローラ
- ⑨. ネット広げ
- ⑩. ナイフ
- ⑪. ブレーキパッド

注意

・装着するネットは2600m 巻以下のネットを使用してください。

- (1) ハンドルを反時計回りに回し、ネット軸を機体外側一杯に移動させます。

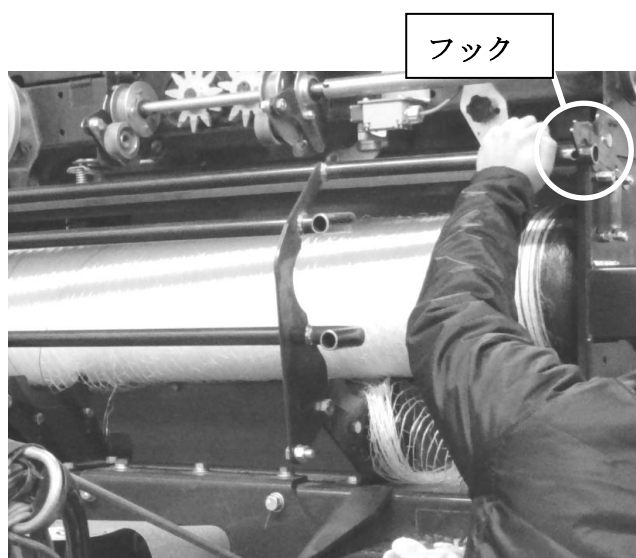


運転に必要な装置の取扱

(2) ネット台にネットを乗せ、ネット端を引出しネットをローラ間に通します。



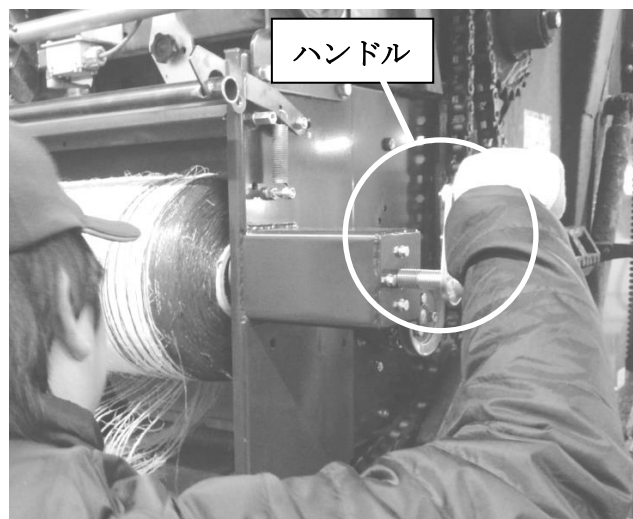
(3) ネット台の端を手でゆっくりと持ち上げ、ネットをネット挿入位置へ転がします。その際、フックが掛かるまで、ネット台を上げ切ってください



メモ

- ・ネット台がフックにかかった状態では、ネットブレーキが解除された状態になります。

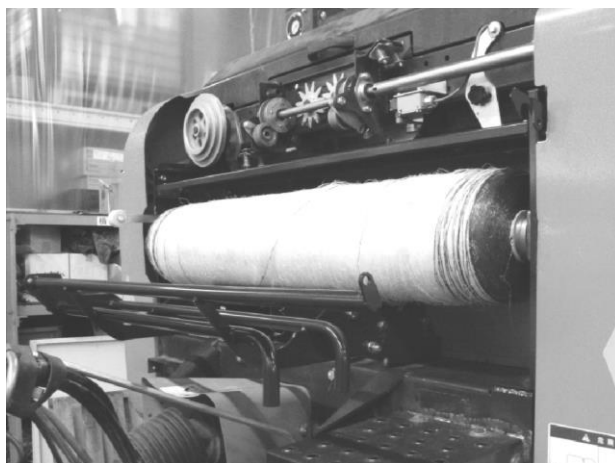
(4) ハンドルを時計回りに回し、ネット軸にて押し込んで下さい。ネットがネットブレーキ軸に押し付けられ、ハンドルが重くなったところからさらに半回転押し込みます。必要に応じハンドルがメインカバーと干渉しない位置までハンドルを時計回りに回し、ハンドルをたたんでください。



(5) 手でネットを回し、ネットのたるみを解消してください。(ネット台がフックにかかった状態)



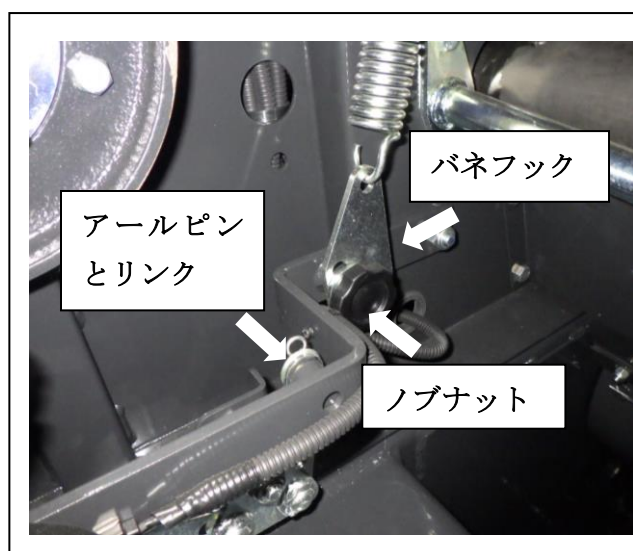
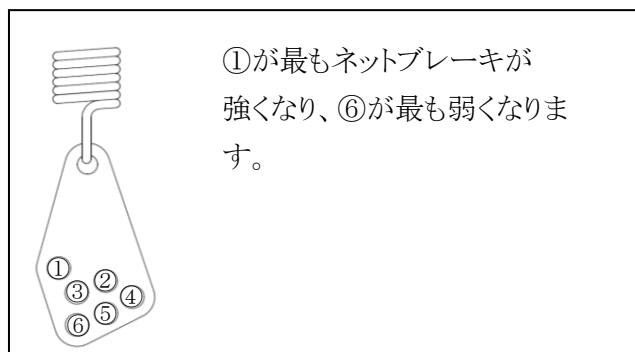
(6) フックを解除しネット台を戻してください。



運転に必要な装置の取扱

◆ ネットのブレーキ力調整方法

写真のアールピンを抜いてリンクを外し、ノブナットを外してバネフックの穴位置を変更することでネットのブレーキ力を調整できます。

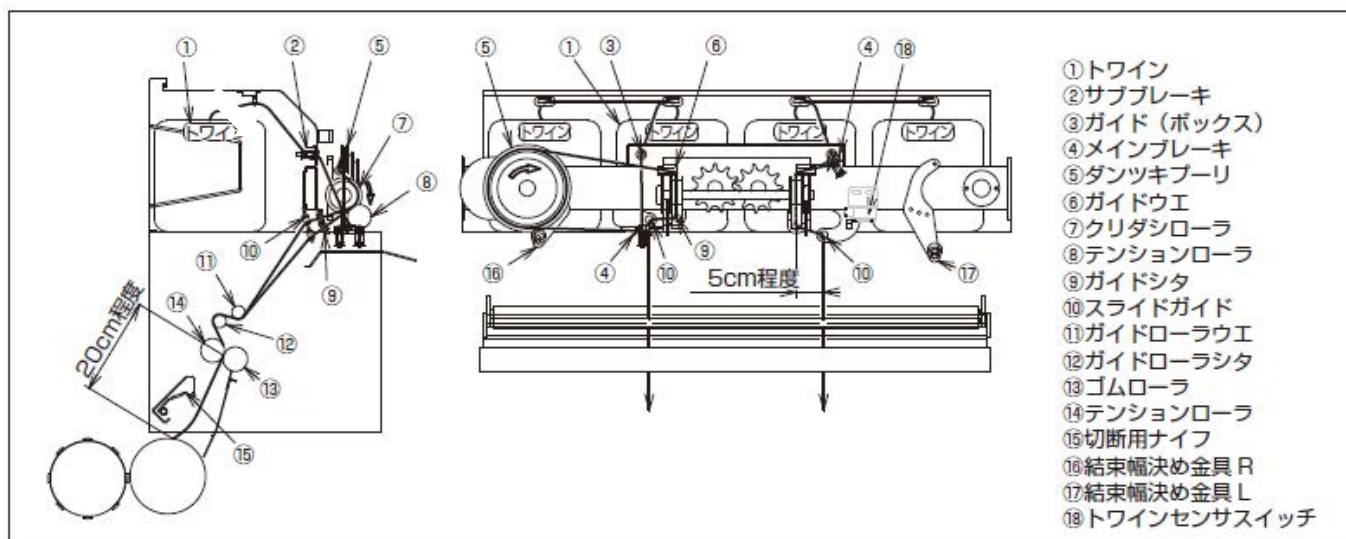


8. トワイン装置の取扱い（オプション）

◆ トワインは下図のように通してください。

トワインの先端は、ゴムローラより20cm 程度垂れ下げてください。

トワインブレーキのアジャストナットの調整で、トワインの巻付強さが変わります。



※ナイフがすぐ近くにあるので十分注意してください。

(1) トワインボックスにセット

上図のようにトワインをボックスにセットし、2個のトワインを結んでください。

(2) 2ヶ所のブレーキに通す

上図に示すように、サブブレーキを通し、ガイドを通してメインブレーキに通してください。

※トワインブレーキのアジャストナットを調整することにより、トワインの巻付け強さが変わります。

(3) ダンツキプーリへ巻付ける

続いてメインブレーキより出たトワインを、ダンツキプーリに1回巻付けてください。片方のトワインのみ時計方向に巻付けてください。

(4) クリダシローラに通す

ダンツキプーリに巻付け後、ガイドウエに通しクリダシローラの間から出しガイドシタの穴を通す。次にスライドガイドに通してから、ゴムローラ上の丸棒2本を通してゴムローラとクリダシローラ間を通し20cm 程度トワインが出るようにセットしてください。

運転に必要な装置の取扱

◆ トワイン案内金具はスタート位置にする

ダンツキプーリを時計回りに回転させるとスライドガイドが内側に進む状態で、スライドガイドがスタータベースの側面より5cm程度の位置になるようセットしてください。

(スライドガイドがトワインセンサスイッチよりも内側になるように)

注意

・案内金具をスタート位置にセットしなかったときは、下記の現象が発生します。

※トワインの巻が少なくロールがほぐれる。

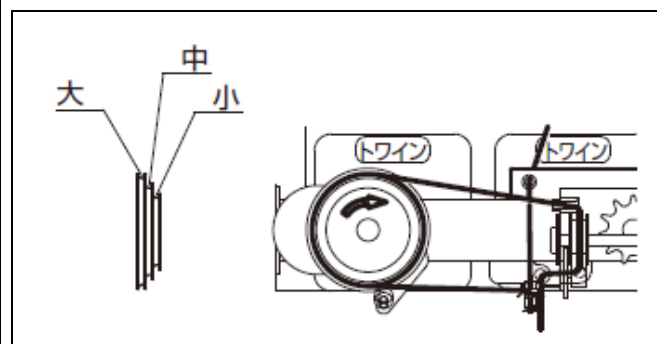
※通常より多く巻いてしまう。

◆ 結束巾の調整

サイドローラの決め金具を外し、ローラを内側の穴にセットすると、結束巾が狭くなり、外側にセットすると広がります。

9. トワイン巻付けピッチの調整

成形したベールの外周に巻付けるピッチの調整は、段付きロールの径(大・中・小)によって行います。



段付ロール 巻付位置	使用量 (m)	巻付けピッチ(mm)
		ベール径 φ155cm時
大(狭い)	108	104
中(中間)	89	126
小(広い)	72	160

10. ナイフホルダ開閉の方法

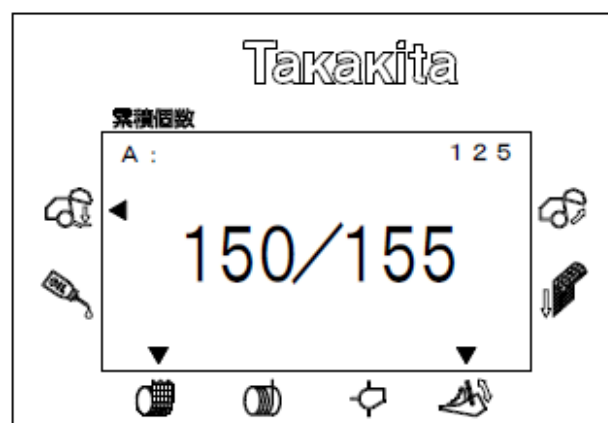
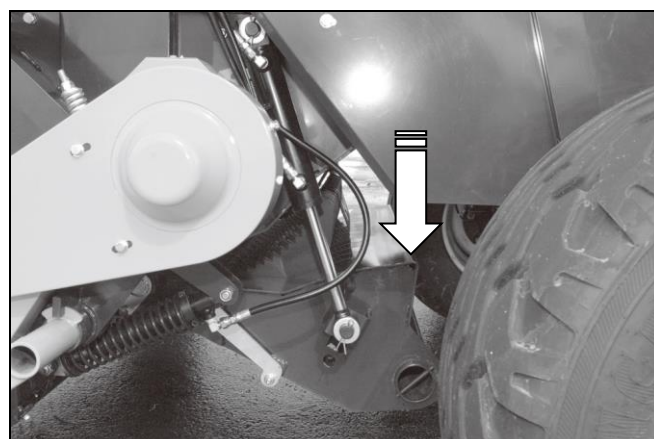
ピック及びカッティングドラム部分の草詰りをトラクタに乗ったまま解除する事が出来ます。

◆ 草詰りの解除方法

(1) 草詰りのためジョイントクラッチが働き回転停止した場合、すぐトラクタの走行及びPTOを停止させてください。

(2) 少しトラクタを後進させ集草列から離れてください。

(3) トラクタの油圧レバーを操作し、ナイフホルダを完全に下げてください。下がっている場合は、コントロールボックスの液晶に「ナイフホルダが降りています」と表示されます。

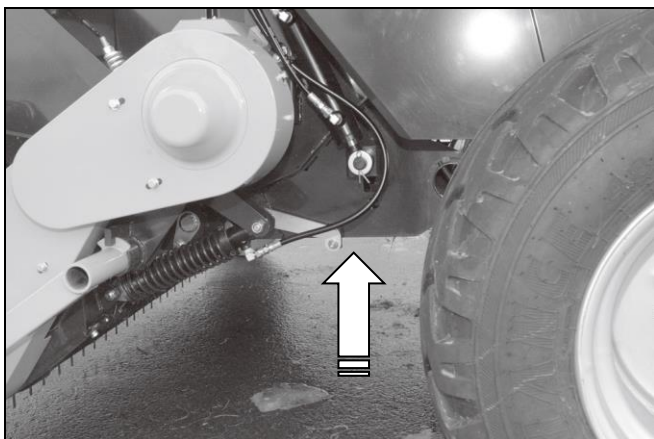


オプションで電磁バルブが取り付けられているときには、ピックアップ/ナイフホルダ切替えスイッチで油圧管路を切替えナイフホルダを上下させることができます。

運転に必要な装置の取扱

(4) トラクタのPTOを低速で接続してください。
1度で解除できない時は数回PTOを断続することによって解決できます。

(5) PTOを回転しながら、油圧レバーを操作してナイフホルダを完全に上げてください。コントロールボックスの「ナイフホルダが降りています」表示が消灯したことを確認します。



オプションバルブが付いている場合はコントロールボックスの設定をピックにもどしてください。

注意

・ナイフホルダ部に草のはさみつけが起こらないよう、必ずPTOを回しながらナイフホルダを上げてください。

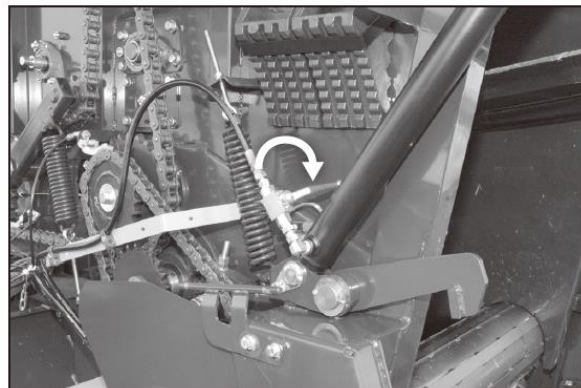
11. 切断ナイフの取外し、取付け

ナイフの取外し、取付けは以下の場合に行います。

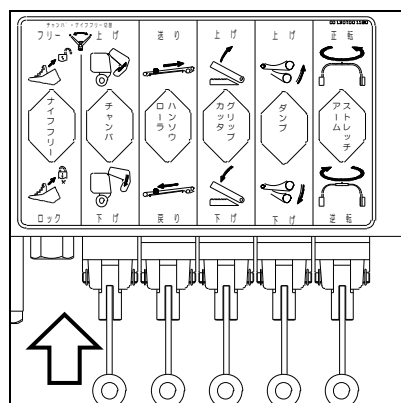
- ・切断長調整の為、ナイフをダミーナイフに交換する場合。
- ・点検整備の為、ナイフを交換、研磨する場合。

◆ 切断ナイフの取外し

(1) リヤチャンバを完全に開け、シリンダストップバルブを「ロック」にしてください。



(2) 本機左前方にある、チャンバ・ナイフフリー油圧切替バルブを操作し、ナイフフリー側にトラクタの油圧レバーを操作してナイフフリーシリンダを完全に伸ばしてください。



運転に必要な装置の取扱



- (3) ナイフホルダ左側にあるナイフ固定レバーのボルトを外し、レバーを約90° (度) 回転させてください。



- (4) チャンバ内からナイフの後端を引き上げ、斜め後方に引き抜いてください。



注意

ナイフホルダ部の草詰りでナイフが下がらない場合は、ナイフを外してホルダの溝の草詰りを取除いてください。

ナイフを取り外すときは必ず軍手を着用して行ってください。

メモ

- ・手順(2)のナイフフリーシリンダを伸ばした状態で、チャンバ・ナイフフリー油圧切り替えバルブを操作し、チャンバ側に切り替えることで、簡易的にナイフを下げた状態で作業が行えます。しかし、ナイフは完全には下がりませんので、無切断にする場合はナイフを外し、ダミーナイフを使用してください。

◆ 切断ナイフの取付け

- (1) ナイフの取付けもこの状態で行います。ナイフを抜いた時と同じ斜め方向から差込んでください。



注意

ナイフが完全に入っていることを確認してください。ナイフの先端が写真よりもでている場合は完全に入っていないので、もう一度奥まで差込んでください。

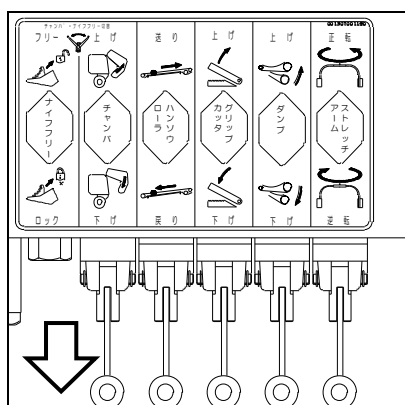
取扱い時は軍手等を着用して作業を行ってください。

運転に必要な装置の取扱

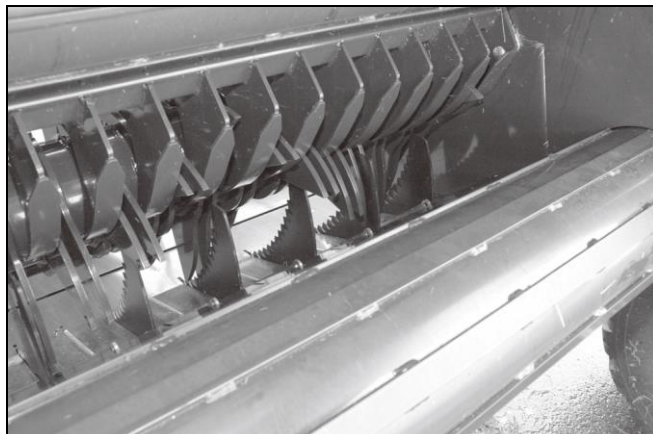
- (2) ナイフ固定レバーを90°（度）回転させて元に戻し、ボルト及びナットで固定してください。



- (3) トラクタの油圧レバーを操作してナイフフリーシリンダを完全に縮めてください。



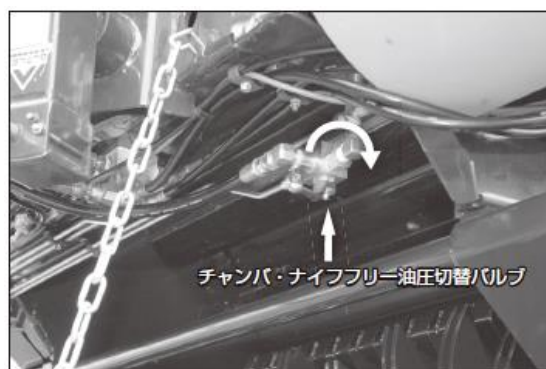
- (4) ナイフがセットした切断長の状態になっているか確認してください。出ていない時はハンマー等でナイフを軽くたたいてください。



注意

ナイフホルダ部の草詰りでナイフが上がらない場合は、ナイフを取外してホルダの溝の草詰りを取除いてください。

- (5) チャンバ・ナイフフリー油圧切替バルブを操作し、チャンバ側に切り替え、リヤチャンバのシリンダストップバルブを「開」にし、コントロールバルブの手動レバーを操作してリヤチャンバを閉じてください。



運転に必要な装置の取扱

12. 切断長の調整

◆ 切断長の変更

切断長の変更は、ナイフをダミーナイフに交換し、調整をしてください。



◆ 理論切断長

- ・ナイフ枚数 13 枚
76 mm (両端 133 mm)
- ・ナイフ枚数 7 枚 (一枚置き)
152 mm (両端 133 mm)
- ・ナイフ枚数 6 枚 (一枚置き)
152 mm (両端 209 mm)

13. 切断ナイフの手入れ

◆ 切断ナイフの手入れ

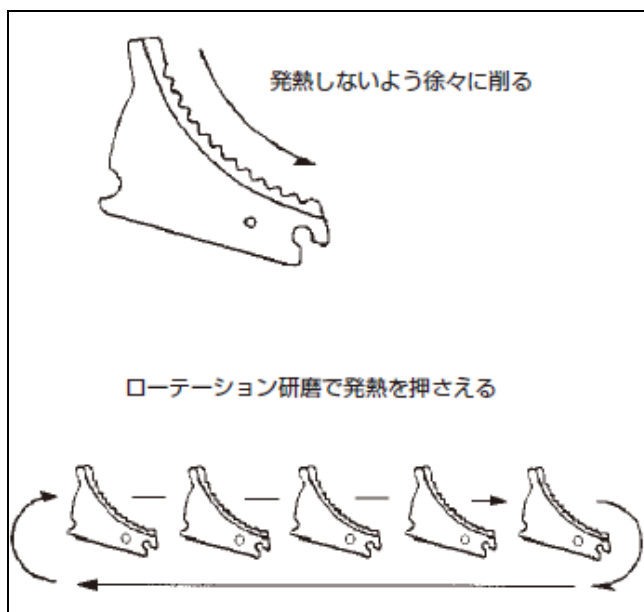
切断ナイフは、特殊鋼の全面焼入れで減りにくくなっていますが、定期的に研磨しないと切れ味が悪くなり、所要馬力も高くなります。稲わら作業の場合、少なくとも 150 ロールに 1 回、牧草の場合は 500 ロールに 1 回程度の研磨をおすすめします。条件によってはさらに少ない作業回数での研磨が必要になります。

◆ 切断ナイフの研磨

平らな方を仕上用のディスクホイルで徐々に削ってください。

1 回の削り量が多いと、発熱により焼きが戻りナイフの減りが極端に早くなります。

複数のナイフをローテーションしながら少しずつ削ると、発熱が少なくなり良好な研磨が行えます。



作業方法

1. 作業手順と要点

作業前に

- 各部の給油をする

準備

トラクタへの装着

ドローバへの装着と調整
スタンドの操作
ユニバーサルジョイントの取付け
油圧ホースの接続
コントロールボックスの取付け

各部の調整と操作

切断長の調整
ピックアップドラムの高さ調整
コントロールボックスの取扱い

ネット・トワイン・フィルムのセット

ネット・トワイン・フィルムのセット

リヤチャンバを閉じる

コントロールボックスの「作業OK」
ランプの点灯確認

PTOを入れて走行する
 540min^{-1}

チャンバの左右に均等に草が入るよう
に走行する

ブザーが『ピッピッピッ…』と鳴る

ベールが設定径に近づいている

ブザーが『ピー-----』と鳴ったら
走行を停止する

ベールが設定径に到達しカムが回転。
ネット・トワインが繰り出る

ネット・トワインの切断を確認
ブザーが『ピー』と鳴る

コントロールボックスの「チャンバ開
ボタン」の点滅を確認

リヤチャンバを開く
(チャンバ開ボタンを押す)

ロールが後方に搬送しテーブルまで移
送するのをモニターで確認

リヤチャンバが自動で閉じる

ラッピング作業開始

作業

作業方法

2. ネットの巻き回数調整

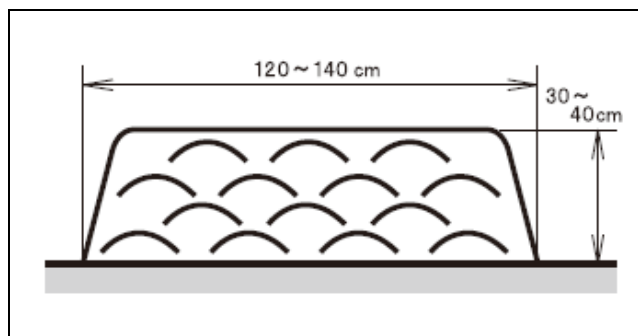
成形したベールの外周に巻付けるネットの巻数調整は、コントロールボックスの巻き回数で調整します。

調整の仕方は31ページを参照してください。

3. 作物の拾い上げ

◆ ウインドローを作ってください

均一なウインドローを作ってから拾い上げてください。ウインドローの大きさは、下図のようにしてください。



注意

ウインドローの草量が多いと詰りの原因となります。能率的な作業をするためにも、上記寸法のウインドローを作ってください。

◆ ウインドロー拾い上げの作業速度

作業速度は、牧草の種類や水分量、ウインドローの草量、草の切断長などによって異なりますが、下記を目安に走行してください。

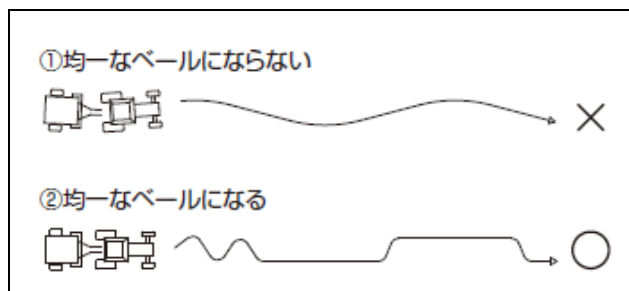
適用	作業速度
サイレージ用	4 ～ 10km/h
乾草用	6 ～ 12km/h

注意

- ウインドローの草量が多い所は、作業速度を落としてください。
- PTO回転速度は $540\text{min}^{-1}(\text{rpm})$ を標準としてください。

◆ ウインドロー拾い上げ走行のしかた

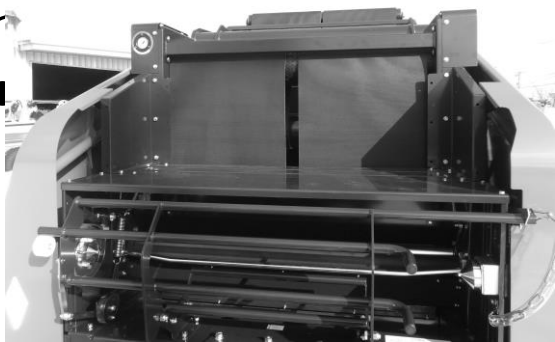
- 型で巾が120～140cmの場合直進履行してください。
- 型で
 - ①巾が120～140cmの場合は直進走行
 - ②巾が120cm以下90cm以上のときはウインドローの中心よりやや左側、そして右側となるよう交互に走る
- ウインドローの巾が90cm以下の場合は下図のように、序盤はチャンバの左右に均等に草が入るように蛇行を行い、圧力ゲージの圧力が上がり始めたら、ウインドローを本機の右側、そして左側となるようにある程度長い区間（20m程度）を交互に走行する。蛇行走行はしないでください。



作業方法

◆ 作業時のタイトベルトの状態確認

作業中に、写真のようにベルトの位置が通常的位置からずれている場合は、ずれているベルト側の草が少ないときです。ずれているベルト側へ草が入るように速やかにハンドル操作をおこない草を投入してください。



を続けるとタイトベルトが破損します。

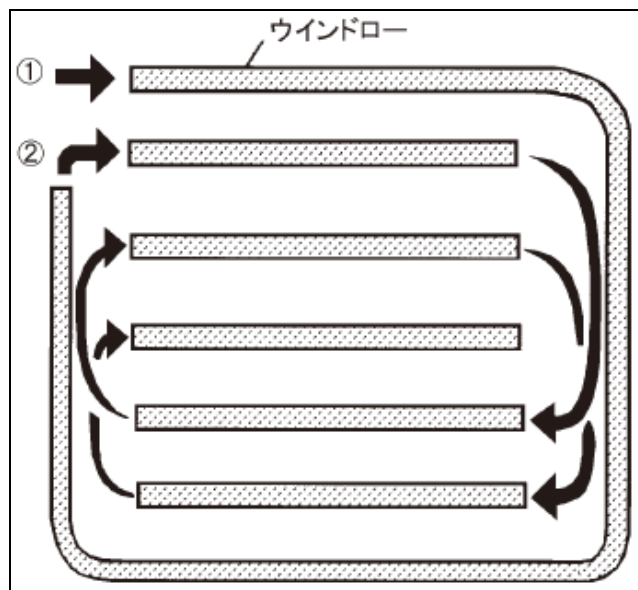
※タイトベルトの修正の仕方は63ページを参照してください。

- コントロールボックスの直径表示が80を越えない場合や圧力ゲージが設定圧まで上がっていない状態での空走りの際（枕地など）は、PTOを止めて走行するようにしてください。

※タイトベルトが横に走り、タイトベルトの破損につながる恐れがあります。

◆ 旋回の際は大きく、急旋回はない

旋回はできるだけ大きく旋回し、急旋回は絶対しないでください。



注意

- 急旋回が必要な場合は、必ずPTOを切ってください。

※PTOを入れたまま旋回すると、特に直線距離の短いほ場では、拾い上げ時間より旋回時間が多くなり、ベールが必要以上に高密度となり放出ができなくなります。

- チャンバに材料が入っていない状態で運転を長時間行わないでください。タイトベルトの寿命が短くなります。

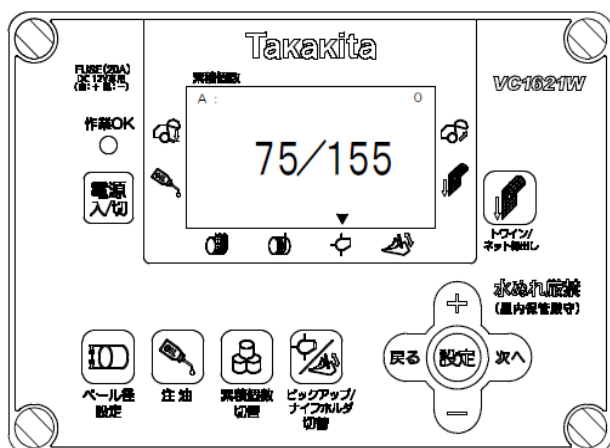
作業方法

4. 作業時の結束手順とトラブル対応

◆ 結束の手順

(1) コントロールボックスの「作業OKランプ」の点灯を確認します。

牧草を拾い上げる前は、コントロールボックスの「バール径」は75 を表示しています。



(2) 牧草を拾い上げていくと、コントロールボックスの「バール径」の数値が増えていきます。

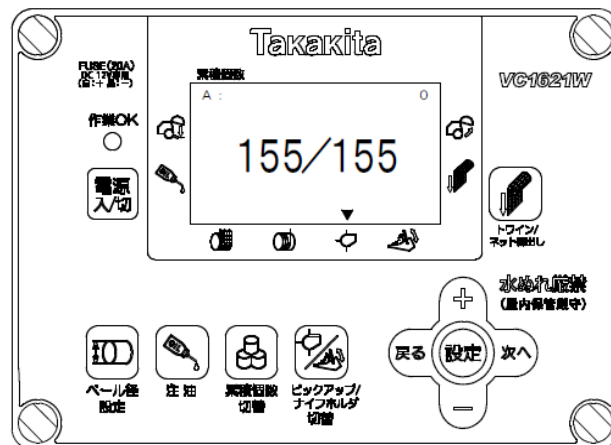
(3) 設定した「バール径」に近づくと（約90%）、コントロールボックスから予鈴のブザーが『ピッ・ピッ・ピッ…』と鳴ります。

(4) 次に設定した「バール径」に、コントロールボックスから本鈴のブザーが『ピー…』と鳴ったら直ちに走行を停止してください。

(5) 自動的に「ネット」が繰り出され結束が完了するとネットは自動的に切断されます。

◆ ネットがくい込まなかったときは

前項の(4)でネットがバールにくい込まなかったときは、もう一度、コントロールボックスの「ネット/トワイン繰出し」ボタンを押してネットをくい込ませてください。



◆ トワインが正常に巻き付けされなかった場合はトワイン繰り出し装置の各部を点検してください。異常がなく再作業するときは、

(1) 段付ロールをトワインが流れる方向に手で回し、トワイン案内金具をスタート位置にする。

46 ページ「トワイン案内金具をスタート位置にする」を参照してください。

(2) 安全を確認してエンジンを始動し、PTO を入れトワインをくい込ませ、巻き付けしてください。

(トワイン使用時は、PTO を540回転で使用してください。)

⚠ 危険

トラクタから降りてネット・トワイン装置を確認するときは、必ずPTOを切りエンジンを停止してから行ってください。

※ピックアップドラムや搬送ドラム部に巻き込まれ、重傷を負います。

作業方法

5. 作業時のピック、ハンソウドラム部への草詰まり解除

◆ 運転に必要な装置の取扱い

ナイフホルダの開閉の方法（46ページ参照）に従い草詰りを解除してください。

トラクタに乗ったまま草詰りを解除する事ができます。

注意

グラウンドPTOを使用し、逆転しないでください。

※本機やユニバーサルジョイントの破損に繋がります。



危険

トラクタから降りてピックアップドラム及びその周辺の草詰りを取除くときは、必ずPTOを切りエンジンを停止してから行ってください。

※ピックアップドラムや搬送ドラム部に巻き込まれ、重傷を負います。

6. 傾斜地での作業

◆ 必ず直角走行・急ハンドル禁止

等高線に対して直角方向に走行し、旋回は速度を落として、急ハンドルを切らないでください。



危険

斜面の等高線に対して平行、または斜め走行や急旋回は横転の危険がありますので決して行わないでください。

作業前の点検について



警告

- 点検するときは、P T Oを切り、平たんで水平な広く地面の硬い場所を選んでください。
※守らないと、ローラーが動き出し、傷害事故を引き起こすおそれがあります。
- 給油、注油および回転部等の点検をするときは、必ずP T Oを切ってください。
※守らないと、手や衣服が巻き込まれたり挟まれたりして、傷害事故を引き起こすおそれがあります。
- 点検時にカバーを開けたり、取り外した場合は、必ず元に戻してから作業してください。
※守らないと、手や衣服が巻き込まれたり挟まれたりして、傷害事故を引き起こすおそれがあります。

運転席にすわって

点検箇所	点検項目	処置	参照ページ
前日に異常があった箇所	再度異常がないか。	お買い上げ先に相談する。	—
警告ラベル貼付箇所	はがれ、汚れ、破損等がないか。	新しいものに貼り換える。	18～19
反射器	汚れ、破損等がないか。	掃除、交換する。	—
本機	損傷がないか。 牧草くずが溜まっていないか。	お買い上げ先に相談する。 掃除する。	—
ボルト・ナット	ゆるみ、脱落がないか。	締め付け、補充する。	—
パイプ、ホース	オイル漏れがないか。	掃除、取り付け部の締め付け、交換する。	—

作業前の点検について

作業の安全確保と、故障を未然に防ぐには、機械の状態をよく知っておくことが大切です。
作業前の点検は、欠かさず行ってください。

敬告

- 取外したカバー類は必ず取付けてください。衣服が巻き込まれたりして危険です。
- 点検・整備をするときはP T Oを切り、エンジンを停止させて回転が止まってから行ってください。

点検一覧表

No.	項 目	内 容	参照ページ	チェック
1	コントロールボックスの電源	電源ランプ点灯確認	2 2 ・ 2 5	
2	駆動チェン注油（オイルタンク）	油圧作動油 I S O V G 3 2 を入れ、アイドルリング	6 0	
3	各部のチェン張り	たわみ量調整	5 8	
4	ピックアップドラムの草などの巻付き	草、ネット、フィルムの巻付きを除去	—	
5	ピックアップのタイン折れ、曲がり	交換、または修理	—	
6	タイトベルト	破損のときは交換	—	
7	カッティング切断ナイフ	研磨もしくは新品と交換	5 0	
8	その他各部注油、グリスアップ	各部への給油参照	6 0 ～ 6 2	

以上について異常が認められない場合は、エンジン回転数を低速にし、負荷をかけず、3～5分間ならし運転を行ってから作業を始めてください。

[illegible]

簡単な手入れと処置

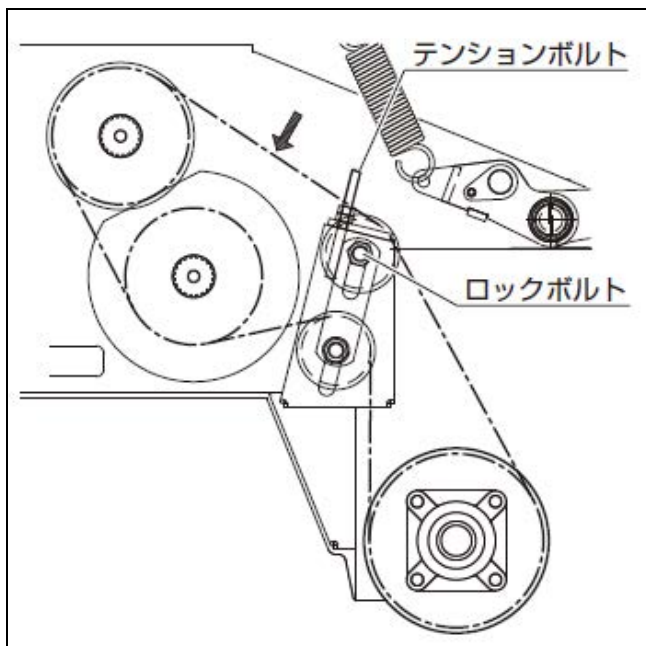
警告

- チェンの張り調整や、各部の調整をするときはP T Oを切り、エンジンを停止させて回転が止まってから行ってください。
- 取外したカバー類は、必ず取付けてください。
- リヤチャンバを開け、内部の点検・修理・清掃を行うときは、必ずシリンダストップバルブを閉じて下降防止をしてください。
- 作業前にはチャンバを全開にした状態で数分間、P T O回転速度400～500min⁻¹ (rpm)で試運転し、その後ボルト・ナットなどのゆるみ、チェンの張り調整などの点検後、作業に入ってください。
- 作業中、ワラ・牧草などを手や足で本機に入れることは絶対にやめてください。
- 運転中は動力の伝達部・回転部に手足や衣服などを絶対に近付けないでください。

1. 各部のローラチェンの張り調整

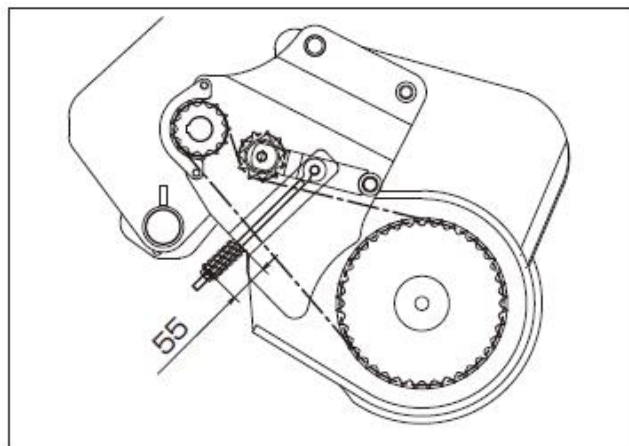
(1) ボトムローラチェン

ロックボルトを緩め、テンションボルトで調整してください。矢印部分を指で押して8 mmが標準です。



(2) ピックアップ駆動チェン (左右)

ナットを調整してバネ長さを55 mmにしてください。ワイドピック (左右)

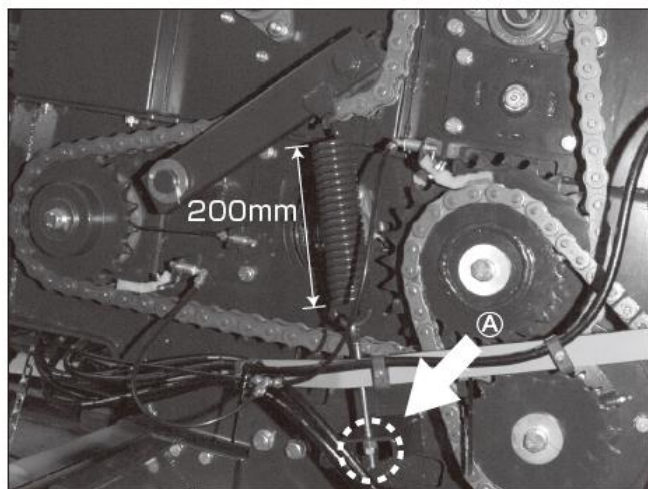


点検窓でチェンを見てテンションボルトで張ってください。バネの長さの標準は55 mmです。

簡単な手入れと処置

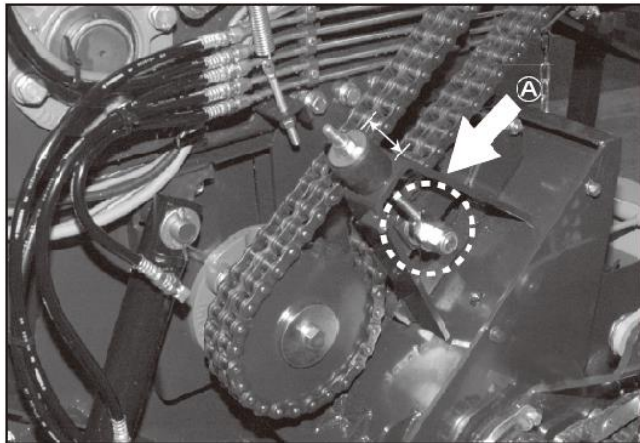
(3) タイトベルト駆動チェン

ロックナットを緩め、テンションボルトAで調製し、バネの長さを200mmにしてください。



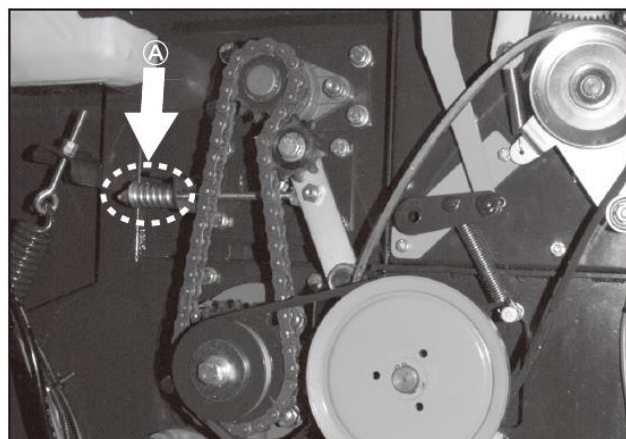
(4) タイトベルト駆動チェン

ナットAを調製し、ゴムの厚さが45mm程度になるようにしてください。



(5) スクレーパーローラ駆動チェン

ロックナットを緩めテンションボルトAで調製し、バネの長さを55mmにしてください。

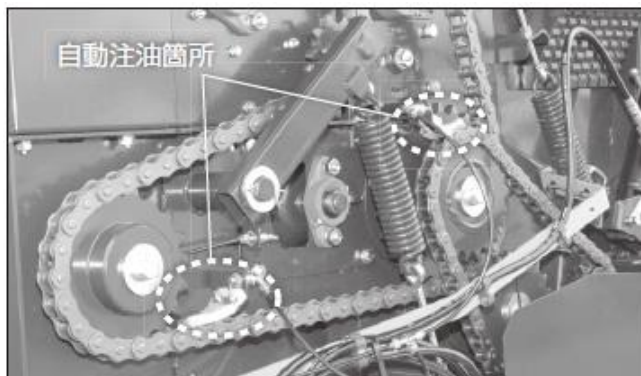


簡単な手入れと処置

2. 自動注油

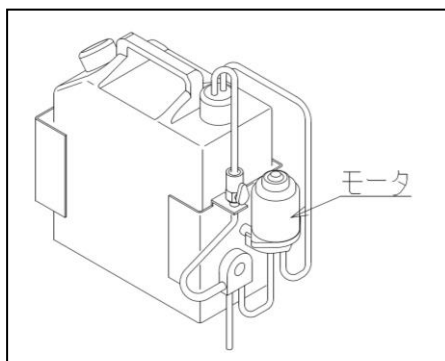
◆主要なチェンは電動により10ベールごとに自動注油されます。

「注油」ボタンを一度押すと設定秒間注油されます。押し続けると押し続けている間注油され、離してから設定秒間注油します。



(1) オイルタンクに、オイルが入っているかを確認してください。オイルタンクのオイルが少ない場合は、オイルタンクの給油口を開け、規定量のオイルを補給してください。

(2) オイルタンクに4リットル程オイルを入れてください。オイルは油圧作動油「ISO VG32」を使用してください。

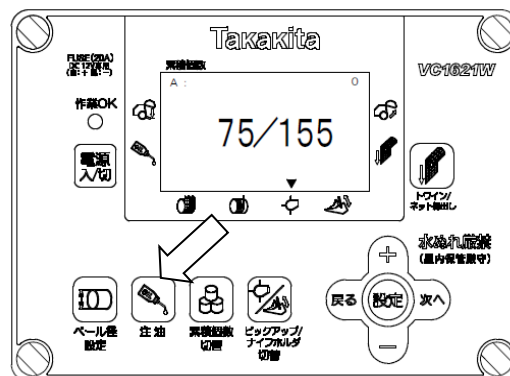


注意

- チャンバ内に材料が入っていない状態での空運転はタイトベルトの寿命を縮めますのでしないでください。
空運転は必ずリヤチャンバを開放して行ってください。
- 無給油で運転するとオイルポンプ及びモータの故障になるので絶対に行わないでください。
- 粘度の高いオイルはモータの故障の原因になるので使用しないでください。
- 注油前に注油ノズル先端のゴミを取除いてください。

(3) リヤチャンバを全開にしてトラクタのPTO低速で回転させてください。

(4) コントロールボックスの注油ボタンを押してください。



(5) そのまま1分程度注油を続け、コントロールボックスの電源をOFFにします。

注意

- ・ 自動注油箇所以外のチェンにも必ず注油してください。
- ・ 注油タンク内のオイル残量には特に注意して、少なくなれば補給してください。
- ・ オイルタンク内のオイルが完全になくなった場合は、エア抜きを行う必要があります。

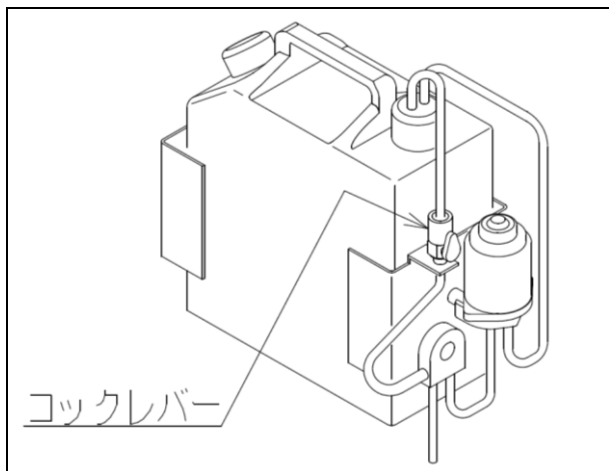
簡単な手入れと処置

《 参考 》

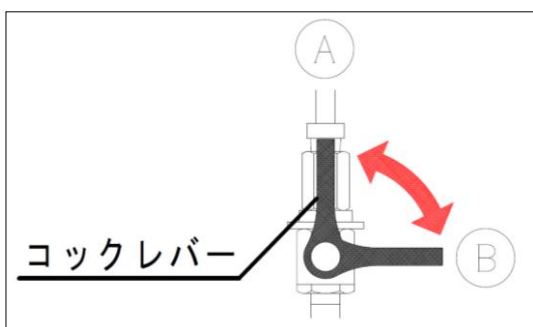
オイルタンク内のオイルが、完全に無くなっていた場合は、エア抜きを行う必要があります。

3. エア抜きのしかた

- (1) タンクにオイルが入っている事を確認してください。



- (2) コックレバーをA方向にしてください。



- (3) コントロールボックスの注油ボタンを押してください。(注油ボタンを長押しするか、必要に応じ注油時間を長く設定してください。)
- (4) タンクへ戻るホース内の気泡が無くなっているのを確認したら、コックレバーをB方向にしてください。

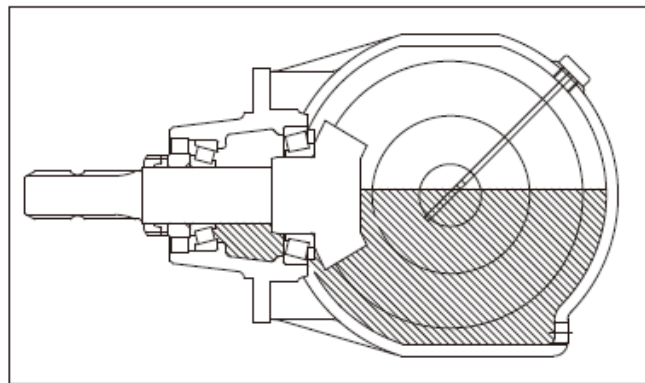
4. ミッションオイル

◆ミッション給油

始動時から50時間で全量交換し、その後は100時間ごとに全量を交換してください。

使用するオイル

ギヤオイル#90・・・2.7リットル



注意

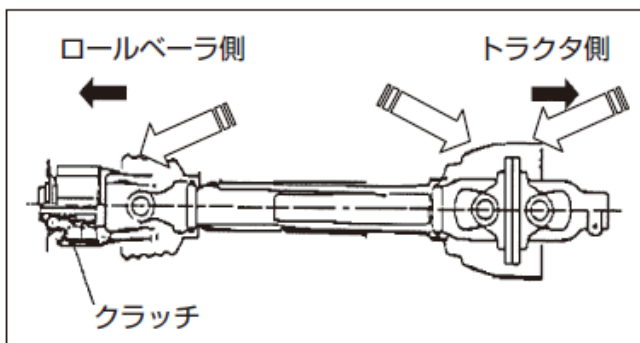
オイル交換による廃油を、下水や土壤に捨てたり、焼却しないでください。環境汚染につながり、法令により処罰されることがあります。「お買い上げ先」または「産業廃棄物処理業者」等に相談して、所定の規則に従って処理してください。

※廃棄物をみだりに、廃却、焼却すると環境汚染につながり、法令により処罰されることがあります。

5. ユニバーサルジョイントのグリスアップ

長期格納前または、50時間ごとに、次の部位にグリスアップしてください。

次の箇所に、グリスアップしてください。

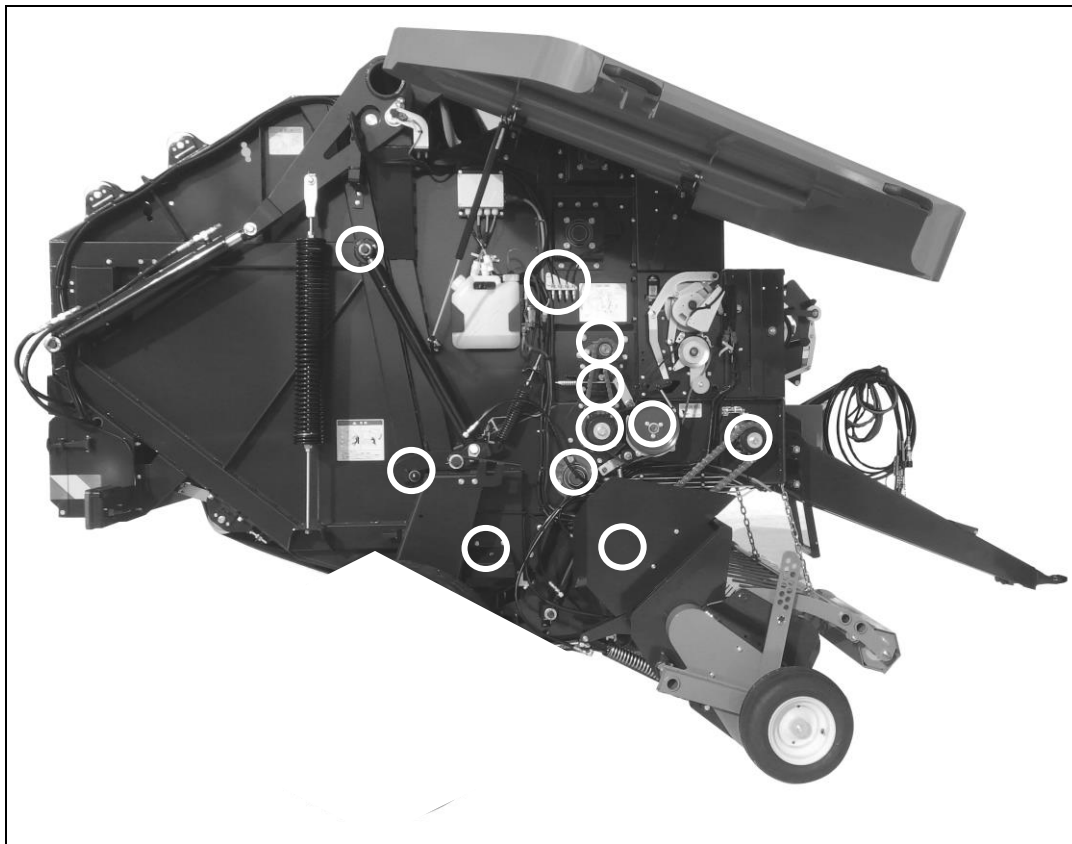


簡単な手入れと処置

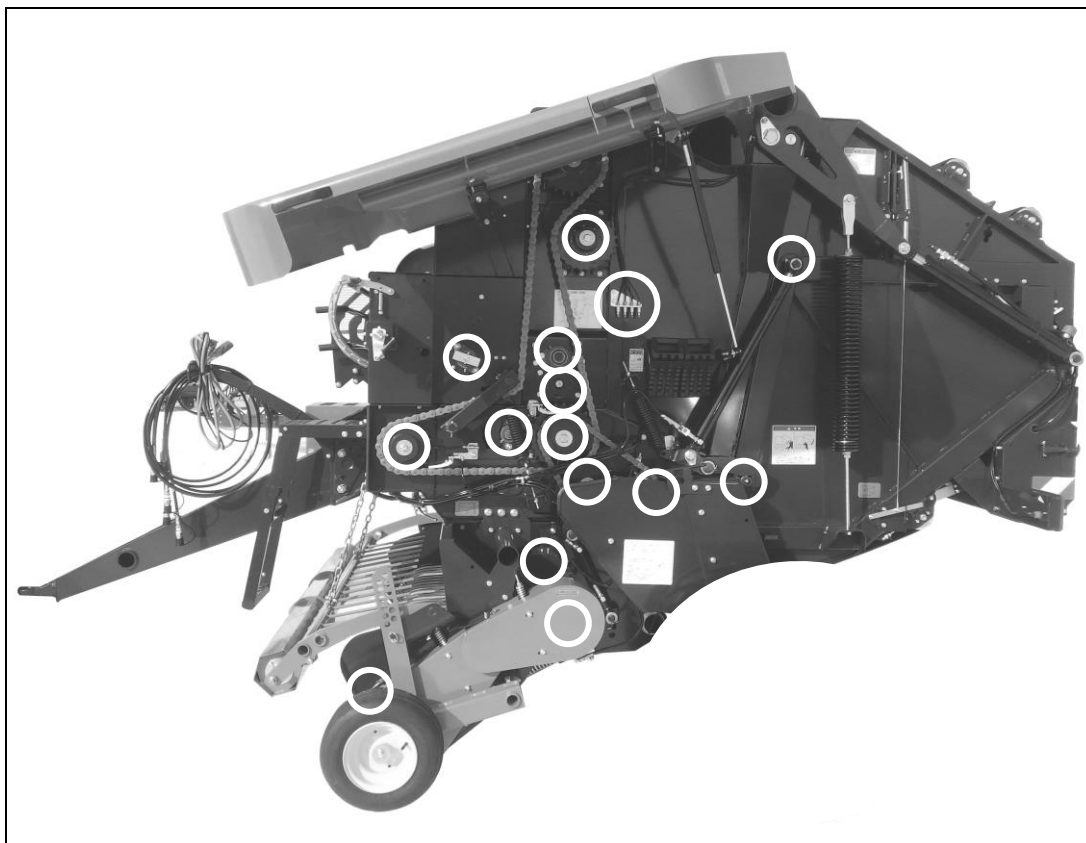
6. チャンバ部のグリスアップ

長期格納前または、8 時間毎に、次の部位にグリスアップしてください。

【右側】



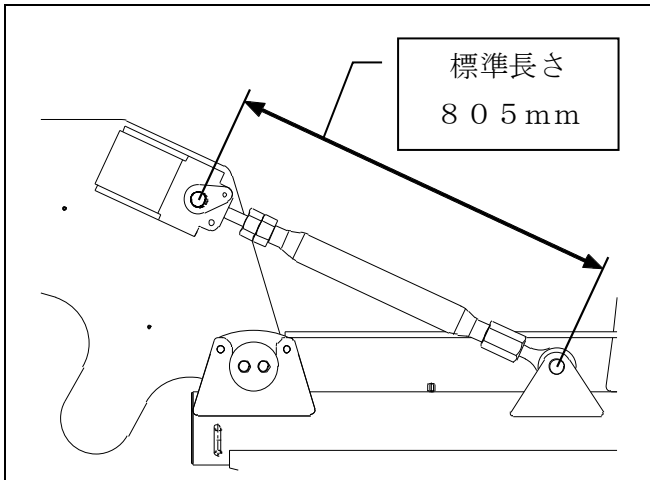
【左側】



簡単な手入れと処置

7. ターンバックルの長さ

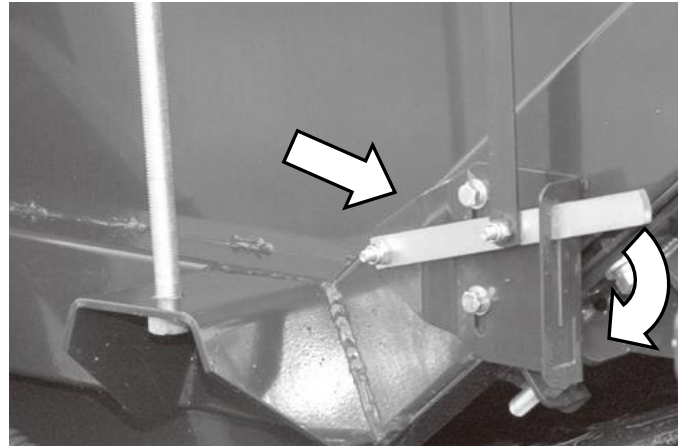
ターンバックルの長さが左右均等でない場合、片方に高荷重がかかり機械が破損する恐れがあります。ターンバックルの長さが左右均等か、又規定より伸びていないか（標準長さ 805mm）、ロックナットが締まっているかを確認してください。



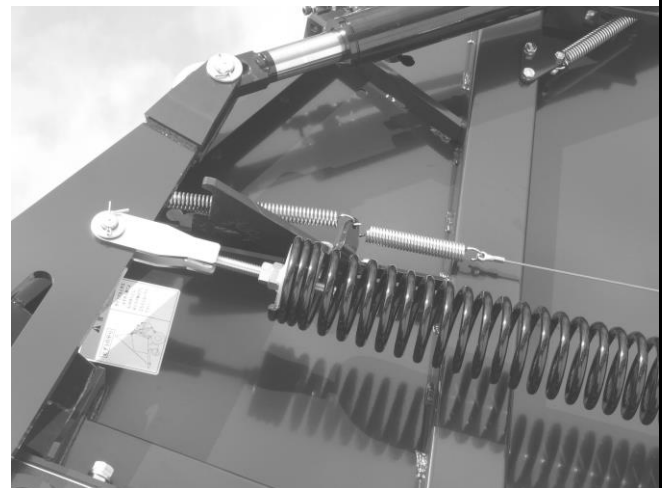
8. タイトベルトのテンションの緩めかた

点検・清掃を行うときや、タイトベルトのズレを修正するときは、下記手順でタイトベルトのテンションを緩めることができます。

- (1) リヤチャンバを閉じ、写真のテンションアームストップレバーを下の位置にしてください。



- (2) 油圧レバーを操作してリヤチャンバを全開まであけてください。そうすると、テンションアームストップがでできます。



簡単な手入れと処置

- (3) 油圧レバーを操作して、リヤチャンバをゆっくりとチャンバを半分程度閉じてください。そうすると、タイトベルトが緩んだ状態になります。



- (4) タイトベルトを元の状態に戻すには、テンションアームストップレバーを上位置に戻し、再びチャンバを全開にすると、テンションアームストップがはずれます。テンションアームストップが外れたらリヤチャンバを閉じてください。

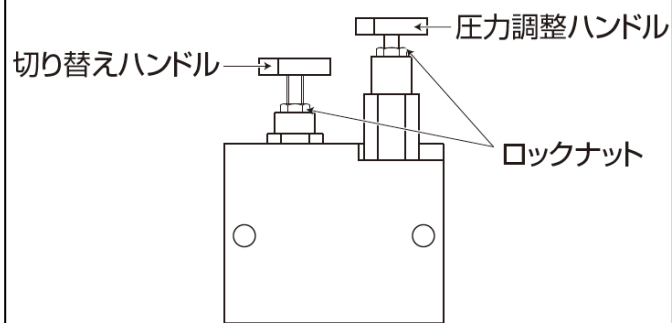
⚠ 注意

- 各ローラに草が巻きついている場合は、必ず取除いてから作業を行ってください。
草が巻き付いた状態での作業は、タイトベルトの横走りやタイトベルトがひっくり返る原因となります。
- タイトベルトを緩めた状態で、各アイドルローラが手で回してスムーズに回転する事を確認してから作業を行ってください。
アイドルローラのベアリングが破損した状態で使用すると発熱し、火災につながります。

9. ベール圧力制御バルブ操作

◆ 手動でのベール圧力調整方法

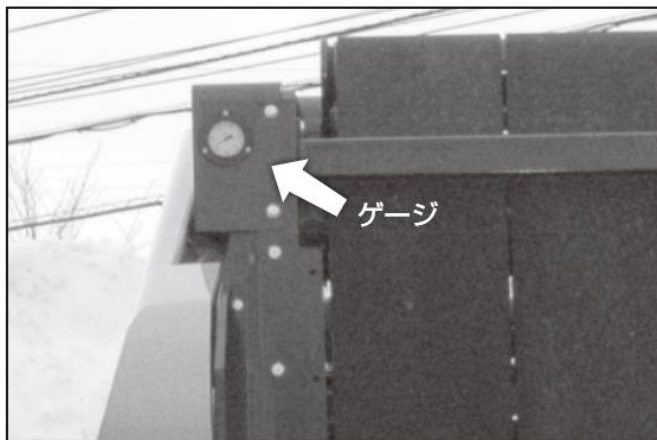
配線トラブルや、電磁圧力制御バルブにてトラブルが発生した場合、機体右後方の手動バルブにてベール圧力を設定することが出来ます。



- (1) リヤチャンバを閉じて圧力制御バルブカバーをはずしてください。
- (2) 切り替えハンドルのロックナットを緩め、時計方向にハンドルを一杯に締め込み、ロックナットを締めてください。
- (3) 圧力調整ハンドルのロックナットを緩め、反時計方向にハンドルを2回転程緩めてください。
- (4) リヤチャンバを全開にしても問題ないよう、工具を機体から下ろし、ネットケースのフタ等は閉じてください。
- (5) トラクタのエンジンをかけ、リヤチャンバを徐々にゆっくりと開けてください。

簡単な手入れと処置

- (6) 圧力ゲージが徐々に上がり、リヤチャンバが全開手前あたりで圧力ゲージの目盛りが4～6の範囲で、希望の圧力まで上がるかを確認してください。



- (7) リヤチャンバを閉じ、必要に応じて圧力調整ハンドルを調整してください。
- 圧力が低い：時計回りに閉め込む
圧力が高い：反時計回りに緩める
- 再調整後、手順(5)(6)(7)を繰り返し希望の圧力に調整してください。

⚠ 注意

手動でのベール圧力調整時は、リヤチャンバを開く際もタイトベルトにテンションがかかる為、設定圧を上げすぎるとリヤチャンバが開きなくなります。圧力ゲージの目盛りは、6以下で使用してください。

圧力調整後、リヤチャンバが全開できることを確認してください。全開できない場合は、圧力を落としてください。

- (8) 調整後、圧力調整ハンドルのロックナットを締め圧力制御バルブカバーを取り付けてください。

再度、電磁圧力制御バルブにて作業をするときは、両ハンドルのロックナットを緩め、圧力調整ハンドルを時計回りに一杯に締め込み切り替えハンドルを反時計回りに一杯に緩めて両ハンドルのロックナットを締めてください。

10. 長期格納時の手入れ

- 水洗いをして付着した泥などを落とし、巻きついたヒモや草などを取除いてください。
- 乾燥後は、回転部・摺動部やチェン類には十分注油し、錆びないようにしてください。
- 塗装のはがれた部分には、塗料を塗って錆びないようにしてください。
- 各部のボルト・ナットがゆるんでいないかを確認し、ゆるんでいるときは締めてください。
- 格納するときは、雨やほこりのかからない屋内の平坦な場所で保管してください。

不調診断

不調内容	診断	処置	参照 ページ
●ピックが上下しない	●カプラが合っていない ●カプラが確実に接続されていない ●トラクタの油圧レバーが間違っている	●合ったものに交換 ●確実に接続する ●細い方(1本)の方のレバーを操作	38
●リヤチャンバが開かない	●搬送ローラが前がない。 ●ストレッチアームのアイマークが合っていない。 ●油圧を送っていない。 ●シリンダストップバルブが「閉」になっている ●ナイフフリー、リヤチャンバ切替バルブがナイフフリー側になっている	●搬送ローラを手動油圧レバーで前に戻す ●ストレッチアームのアイマークを手動油圧レバーで合わせる ●油圧を送り、手動レバーで確認する ●ストップバルブを「開」にする ●切替バルブをリヤチャンバ側にする	43 47
ナイフホルダが開閉出来ない ●ナイフホルダが完全に閉らない	●トラクタの油圧レバーが間違っている ●開閉時に草がはさまっている可能性がある	●細い方(2本)複動1系統 ●ナイフホルダをあげるときは草のはさまりが少ないよう必ずPTOを回しながら行う	38 47

不調診断

不調内容	診断	処置	参照 ページ
コントロールボックスの不調			
●電源ランプが点灯しない	●ヒューズが切れている	●ヒューズの交換 ロールベアラ側 20 A 電源コード(カプセル内) 30 A	39 22 38
●作業OKランプが点灯しない	●電源の+・-が逆 ●チャンバが開いている	●白→⊕、黒→⊖に接続する ●チャンバを完全に閉め切ってください	38
●「カムが回転できませんカムを確認してください」のエラーが出る	●ナイフホルダが降りている ●カムが初期位置にない ●カムが回転できない	●ナイフホルダを完全に上げきってください ●コントロールボックスの電源を入れなおしてください。 カムが初期位置に回転します ●カムのギヤー部のほこりを除去してください ●ワイパーモータが故障していないか確認してください	47 25
●「ネットを確認または交換しネット繰出しスイッチを押してください」のエラーが出る	●ネットがなくなっている ●ネットがチャンバ内に入っていない	●新しいネットに交換してください ●ネットがゴムローラ等に絡まっていないか確認してください	43

不調診断

不調内容	診断	処置	参照 ページ
●ジョイントクラッチが滑る	●ウインドローが大きすぎる ●作業速度が速い ●カッティングナイフが切れなくなっている	●適正なウインドローを作る ●作業速度を落とす ●ナイフの研磨を行う	5 2 5 0
●作物をきれいに拾い上げない	●ベール固さ設定が高い ●ピックアップ高さの設定が高い ●走行速度が速すぎる ●タインが破損している	●カッティングナイフの枚数を減らす ●ベール固さ設定を下げる ●ゲージホイールの高さ調整を行う ●走行速度を落とす ●タインを交換する	4 7 3 1 4 2
●ベールが固くならない	●ウインドロー幅が狭い ●ウインドロー拾い上げ走行の仕方が誤っている ●走行速度が速すぎる ●ベルトの張りが弱い ●作業中圧力ゲージの針が動いていない	●1 2 0～1 4 0 cmの均一なウインドローを作る ●ウインドローが狭い場合は、左右に均等に草が入るよう走行する ●走行速度を落とす ●ベール固さ設定を上げる ●ベルトテンションシリンダの油圧系統にオイル漏れ等不具合があります。販売店等に点検・修理を依頼してください	5 2 5 2 3 1
●タイトベルトがひっくり返る	●ウインドロー拾い上げ走行の仕方が誤っている	●ウインドローが狭い場合は、左右に均等に草が入るよう走行する	5 2
●タイトベルトが横走りする	●ローラに草が巻きついている	●巻きついている草を除去する	
●ネットが広がらない	●ネットの通し方が間違っている ●ブレーキシューが減っている ●ブレーキが弱い	●通し方を確認する ●ブレーキシューを交換する ●ブレーキバネが長くなるよう金具の穴位置を変更する	4 3 4 3 4 5
●ネットが破れたり、剥がれる	●ネットの巻数が少ない	●ネット巻数を増やす	3 1
●注油オイルが出ない	●タンクとポンプの配管に空気が入っている ●オイルの番手が大きい ●注油モータが破損している	●エア抜きをする ●番手を3 2番にする ●注油モータを交換する	6 1 6 0

付 表

1. 主要諸元

下表は、VCW1621W-Hにラップマシンを組付後のコンビラップの諸元です。

装 着 方 法	ドローバけん引式
駆 動 方 法	P T O 駆 動 (回 転 速 度 5 4 0 min ⁻¹ (rpm)) トラクタ油圧 複動 2 系統 単動 1 系統
適応トラクタ (kW {PS})	7 3 . 6 ~ 1 1 0 . 3 k w (1 0 0 ~ 1 5 0 P S)
ベール寸法 (c m)	φ 1 5 5 ~ 1 6 0 × 1 1 8
梱 包 方 法	ネット・トワイン (オプション)
作 業 速 度	4 ~ 1 2 k m / h r

※この主要諸元は、改良などにより、予告なく変更することがあります

※作業能率は、草量と車速により大きく変化しますので参考目安として下さい。

2. 主な消耗部品

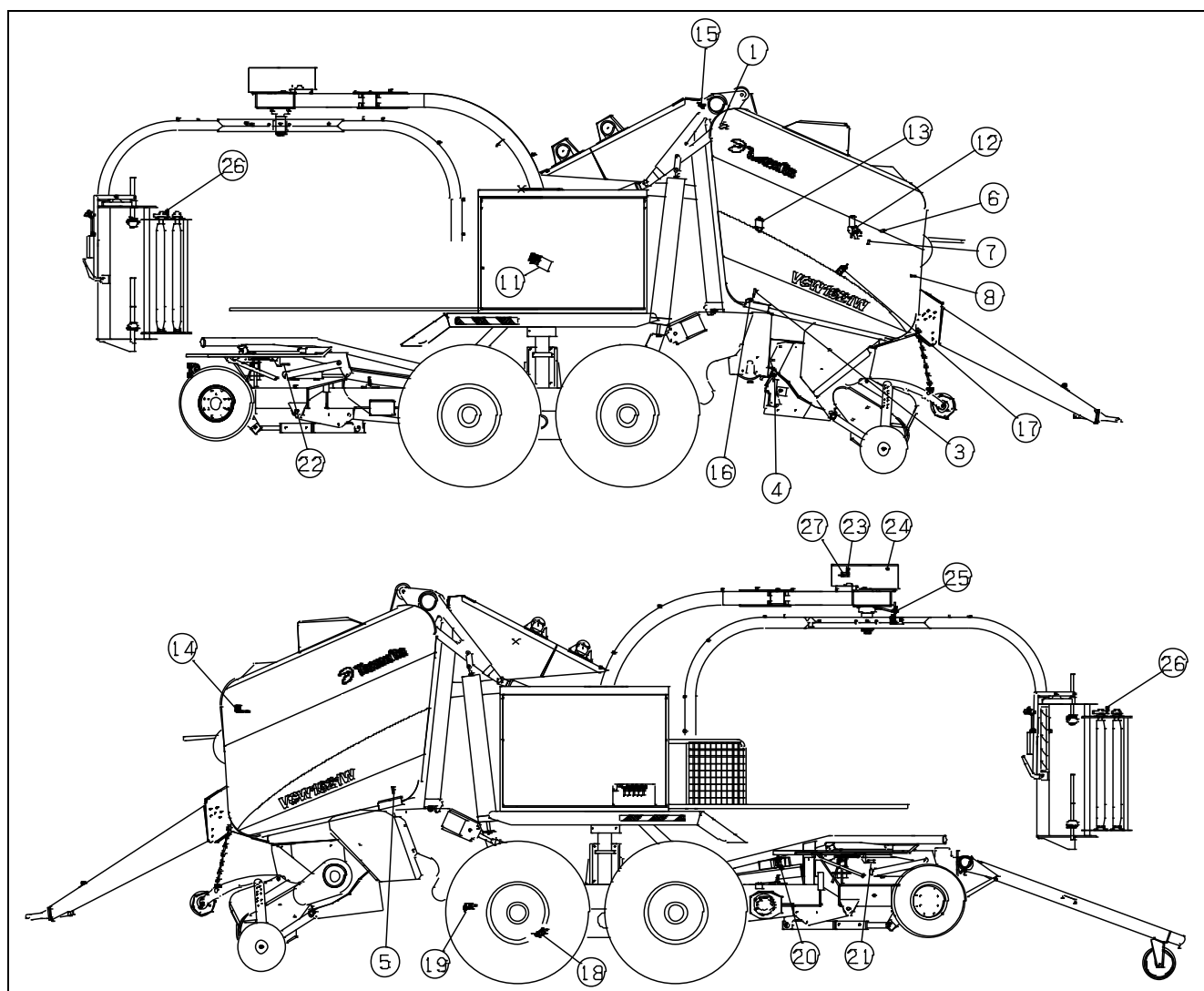
部 品 名 称	部 品 コ ー ド	サ イ ズ	員 数
ピックタイン	1 1 4 0 5 - 5 5 9 1 - 0 0 1	強化タイプ	5 6 本/台
ナイフ	6 0 1 1 9 - 6 2 6 1 - 0 1 0	カッティング部	1 3 枚/台

3. オイル

給 油 箇 所	使 用 オ イ ル	給 油 量
ミッション	ギヤオイル # 9 0	2 . 7 リットル
チェーン部 (オイルタンクに投入)	油圧作動油 I S O V G 3 2 相当	約 4 リットル

付 表

4. 構成部品の位置



① ベールサイズセンサ

⑪ 圧力調整バルブ

⑮ ロール前センサ

③ チャンバ閉右センサ

⑫ ワイパーモータ

⑲ ローラ前センサ

④ ボトムフロアセンサ

⑬ 注油ポンプ

⑳ ローラ後センサ

⑤ チャンバ閉左センサ

⑭ トワインガイドセンサ

㉑ グリップカッタ左センサ

⑥ カム 2 センサ

(オプション)

㉒ グリップカッタ右センサ

⑦ カム 1 センサ

⑮ チャンバ開センサ

㉓ 回転前センサ

⑧ カウントセンサ

⑯ チャンバ閉センサ

㉔ 回転後センサ

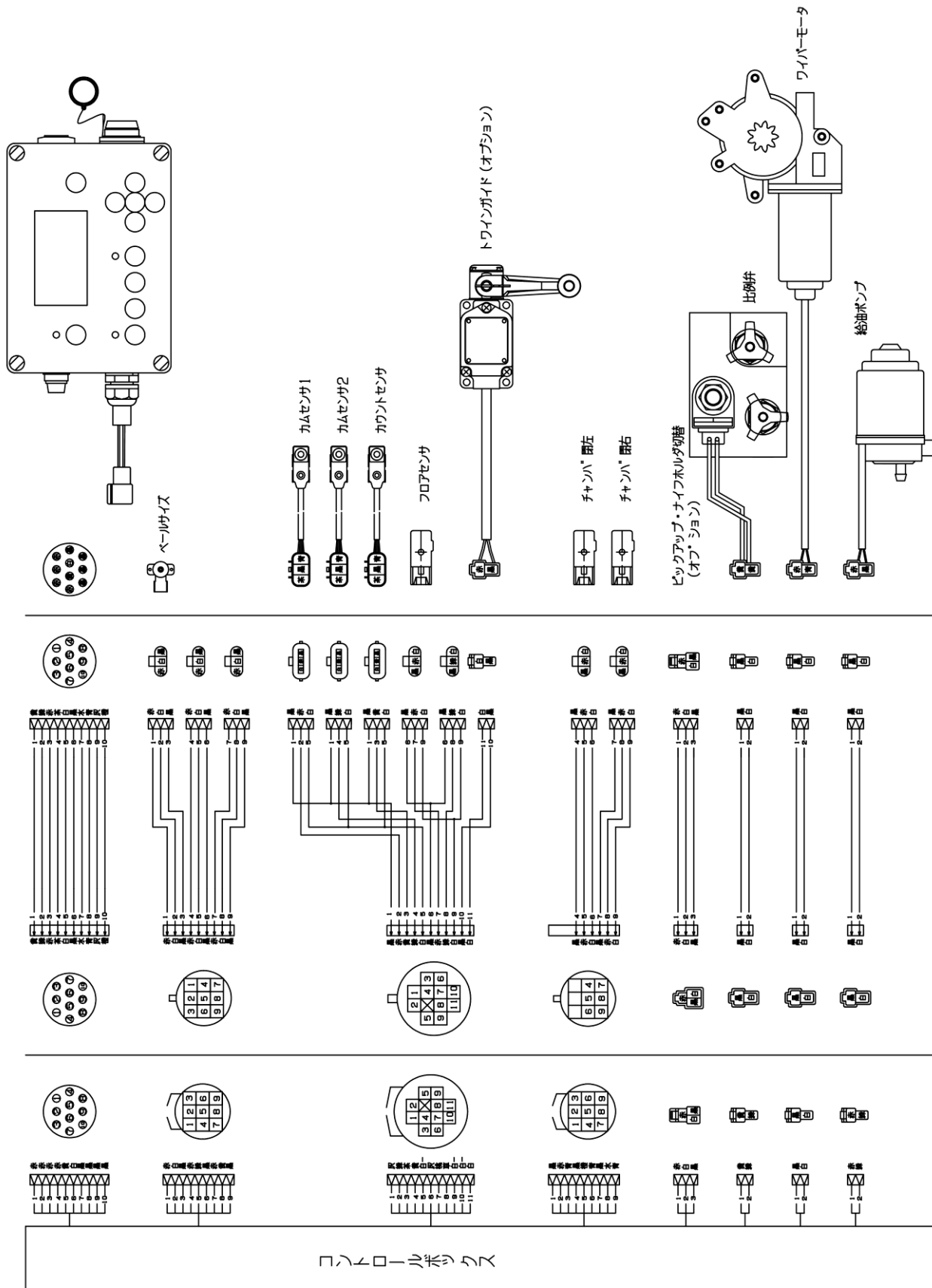
⑰ カッターセンサ

㉕ ラップ切上センサ

㉖ ラップ切下センサ

付 表

5. 電気回路図



付 表

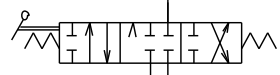
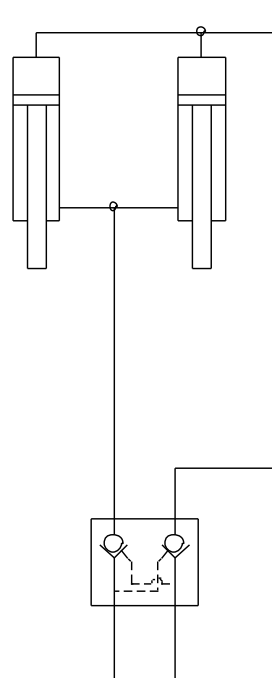
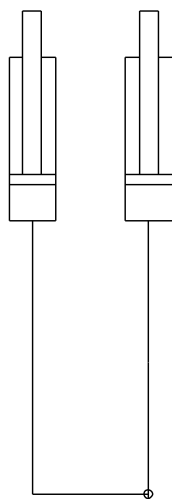
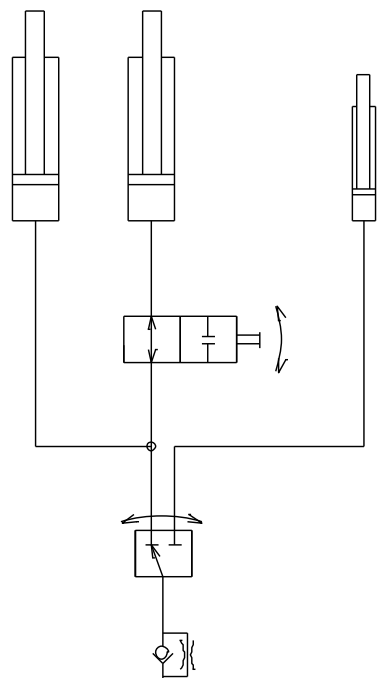
6. 油圧回路図

チャンバ

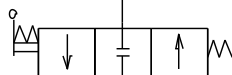
ナイフフリー

ピック

ナイフホルダ



ラップマシン5連バルブ



トラクタ

